

(様式第10)

徳大病院総第82号

令和 6年 10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人徳島大学
学長 河村保彦

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
氏名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

徳島大学病院

3 所在の場所

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50番地の1
電話 (088)631-3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		○
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	脳神経内科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
41	8	0	0	643	692	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	270	105.8	375.8
歯科医師	97	38.1	135.1
薬剤師	50	0	50
保健師	0	0	0
助産師	40	0.9	40.9
看護師	667	15.2	682.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	11	4.5	15.5
管理栄養士	12	0.8	12.8

職種	員数
看護補助者	72
理学療法士	15
作業療法士	7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	21
栄養士	0
歯科技工士	8
診療放射線技師	42

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	57
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	59	
事務職員	145	
その他の職員	4	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	90	眼科専門医	11
外科専門医	37	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	8	放射線科専門医	17
小児科専門医	15	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	15	救急科専門医	3
		合計	278

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (香美 祥二) 任命年月日 令和 31 年 4 月 1 日

リスクマネジメント委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	501 人	10 人	511 人
1日当たり平均外来患者数	1,518 人	434 人	1,952 人
1日当たり平均調剤数	入院 454.0剤、 外来 34.9剤		
必要医師数	139 人		

必要歯科医師数	23	人
必要薬剤師数	17	人
必要(准)看護師数	320	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	225.5 ㎡	鉄筋コンクリート	11 床	有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	495	㎡	病床数	28 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	63			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	72 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分注装置、生化学分析装置		
細菌検査室	259 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養装置、細菌検査装置		
病理検査室	357 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、SL医用写真撮影装置		
病理解剖室	161 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、スケール付ストレッチャー		
研究室	257 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	マルチスライスCT、四肢用MRI、回診用X線装置		
講義室	982 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	28 室	収容定員	630 人
図書室	75 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	4,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.8	%	逆紹介率	64.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		16,512 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,858 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		537 人		
	D: 初診の患者の数		21,366 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市病院局・病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
柴谷 亮	柴谷法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有するため	無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学保健福祉学部・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる事ができる者(学識経験を有する者)	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
該当なし	
先進医療の種類合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	1人
アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	0人
反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計数	3
取扱い患者数の合計(人)	1

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	15	56	ベーチェット病	50
2	筋萎縮性側索硬化症	116	57	特発性拡張型心筋症	62
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	29
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	55	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	300	61	自己免疫性溶血性貧血	8
7	大脳皮質基底核変性症	27	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	32
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	11	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	159	66	IgA腎症	60
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	55
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	106	68	黄色靱帯骨化症	57
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	62	69	後縦靱帯骨化症	136
15	封入体筋炎	8	70	広範脊柱管狭窄症	13
16	クロー・深瀬症候群	5	71	特発性大腿骨頭壊死症	47
17	多系統萎縮症	51	72	下垂体性ADH分泌異常症	19
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	86	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	9
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	61	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
23	プリオン病	8	78	下垂体前葉機能低下症	70
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	6	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	49	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	96
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	105
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	20
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
34	神経線維腫症	30	89	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	21	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	20	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	31
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	109
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	205
43	顕微鏡的多発血管炎	34	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	22	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	241	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	113	105	チャージ症候群	0
51	全身性强皮症	89	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	47	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	5
53	シェーグレン症候群	76	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	13	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
113	筋ジストロフィー	17	163	特発性後天性全身性無汗症	7
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	7	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ビッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シン普森症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	267	進行性骨化性線維異形成症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	268	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	269	骨形成不全症	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	270	タナトフォリック骨異形成症	0
215	ファロー四徴症	6	271	軟骨無形成症	0
216	両大血管右室起始症	2	272	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
217	エプスタイン病	0	273	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218	アルポート症候群	2	274	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	275	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
220	急速進行性糸球体腎炎	10	276	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	277	先天性赤血球形成異常性貧血	0
222	一次性ネフローゼ症候群	79	278	後天性赤芽球癆	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	279	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224	紫斑病性腎炎	7	280	ファンコニ貧血	0
225	先天性腎性尿崩症	0	281	遺伝性鉄芽球性貧血	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	7	282	エプスタイン症候群	0
227	オスラー病	6	283	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
228	閉塞性細気管支炎	0	284	クロンカイト・カナダ症候群	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	285	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230	肺胞低換気症候群	1	286	ヒルシウスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	287	総排泄腔外反症	0
232	カーニー複合	0	288	総排泄腔遺残	0
233	ウォルフラム症候群	0	289	先天性横隔膜ヘルニア	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	290	乳幼児肝巨大血管腫	0
235	副甲状腺機能低下症	0	291	胆道閉鎖症	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	292	アラジール症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	293	遺伝性膝炎	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	294	嚢胞性線維症	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	295	IgG4関連疾患	12
240	フェニルケトン尿症	2	296	黄斑ジストロフィー	0
241	高チロシン血症1型	0	297	レーベル遺伝性視神経症	1
242	高チロシン血症2型	0	298	アッシャー症候群	0
243	高チロシン血症3型	1	299	若年発症型両側性感音難聴	0
244	メープルシロップ尿症	0	300	遅発性内リンパ水腫	1
245	プロピオン酸血症	1	301	好酸球性副鼻腔炎	52
246	メチルマロン酸血症	2	302	カナバン病	0
247	イソ吉草酸血症	0	303	進行性白質脳症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	304	進行性ミオクローヌステんかん	0
249	グルタル酸血症1型	1	305	先天異常症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	306	先天性三尖弁狭窄症	0
251	尿素サイクル異常症	0	307	先天性僧帽弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	308	先天性肺静脈狭窄症	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	309	左肺動脈右肺動脈起始症	0
254	ポルフィリン症	0	310	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	311	カルニチン回路異常症	0
256	筋型糖原病	1	312	三頭酵素欠損症	0
257	肝型糖原病	0	313	シトリン欠損症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	315	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260	シトステロール血症	0	316	非ケトーシス型高グリシン血症	0
261	タンジール病	0	317	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	318	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	319	メチルグルタコン酸尿症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	320	遺伝性自己炎症疾患	0
265	脂肪萎縮症	0	321	大理石骨病	3
266	家族性地中海熱	5	322	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
323	高IgD症候群	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	6
324	中條・西村症候群	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
325	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
326	慢性再発性多発性骨髄炎	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
327	強直性脊椎炎	6	335	ネフロン癆	1
328	前眼部形成異常	0	336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
329	無虹彩症	0	337	ホモシスチン尿症	2
330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	338
合計患者数(人)	3,574

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩等管理加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1入院基本料)、精神病棟(10対1入院基本料) 告示注11入院栄養管理体制加算	・術後疼痛管理チーム加算
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2
・医師事務作業補助体制加算2(30対1)	・入退院支援加算1 告示注7入院時支援加算、告示注8総合機能評価加算 告示注4地域連携診療計画加算
・急性期看護補助体制加算50対1 告示注2夜間100対1急性期看護補助体制加算 告示注3夜間看護体制加算、告示注4看護補助体制充実加算	・認知症ケア加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・放射線治療病室管理加算 (治療用放射性同位元素による場合)	・特定集中治療室管理料2 告示注1算定上限日数に関する基準 告示注4早期離床・リハビリテーション加算 告示注5早期栄養介入管理加算
・放射線治療病室管理加算 (密封小線源による場合)	・ハイケアユニット入院医療管理料1 告示注3早期離床・リハビリテーション加算 告示注4早期栄養介入管理加算
・緩和ケア診療加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 告示注4早期栄養介入管理加算
・小児緩和ケア診療加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算 告示注3歯科医師連携加算	・小児入院医療管理料2 告示注2プレイルーム加算
・医療安全対策加算1	・短期滞在手術等基本料1
・感染対策向上加算1 告示注2指導強化加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・がん患者指導管理料イ	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・がん患者指導管理料ロ	・角膜移植術(内皮移植加算)
・がん患者指導管理料ハ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料ニ	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・小児運動器疾患指導管理料	・人工中耳植込術
・婦人科特定疾患治療管理料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・腎代替療法指導管理料	・耳管用補綴材挿入術
・一般不妊治療管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・生殖補助医療管理料1	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・下肢創傷処置管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・連携充実加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ニコチン依存症管理料	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・がん治療連携計画策定料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・外来排尿自立指導料	・乳癌センチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・乳癌センチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料2	・気管支バルブ留置術
・医療機器安全管理料(歯科)	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・胸腔鏡下弁形成術
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・胸腔鏡下弁置換術
・染色体検査の注2に規定する基準	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・骨髄微小残存病変量測定	・経皮的僧帽弁クリップ術
・BRCA1/2遺伝子検査	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・がんゲノムプロファイリング検査	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・先天性代謝異常症検査	・経皮的中隔心筋焼灼術
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・国際標準検査管理加算	・補助人工心臓
・遺伝カウンセリング加算	・経皮的下肢動脈形成術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下胃縮小術
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・単線維筋電図	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・脳波検査判断料1	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・神経学的検査	・腹腔鏡下肝切除術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・全視野精密網膜電図	・生体部分肝移植術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経頸静脈的肝生検	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・口腔細菌定量検査	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・同種死体腎移植術
・精密触覚機能検査	・生体腎移植術
・睡眠時歯科筋電図検査	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・歯科画像診断管理加算1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・精巣温存手術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・精巣内精子採取術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・運動器リハビリテーション料(I)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・がん患者リハビリテーション料	・体外式膜型人工肺管理料
・歯科口腔リハビリテーション料2	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経頭蓋磁気刺激療法	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	・輸血管管理料I
・認知療法・認知行動療法1	・輸血適正使用加算
・精神科作業療法	・同種クリオプレシペート作製術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・歯周組織再生誘導手術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・医療保護入院等診療料	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・歯根端切除手術の注3
・多血小板血漿処置	・レーザー機器加算
・硬膜外自家血注入	・麻酔管理料(I)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・麻酔管理料(II)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・歯科麻酔管理料
・人工腎臓	・放射線治療専任加算
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・外来放射線治療加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・高エネルギー放射線治療
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・一回線量増加加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・強度変調放射線治療(IMRT)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・ストーマ合併症加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・手術用顕微鏡加算	・定位放射線治療
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・光学印象	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・デジタル病理画像による病理診断
・歯科技工加算1及び2	・病理診断管理加算2
・センチネルリンパ節加算⇒皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・口腔病理診断管理加算2
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・歯科矯正診断料
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・椎間板内酵素注入療法	・看護職員処遇改善評価料(1~165)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・入院ベースアップ評価料(1~165)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	20回	
剖検の状況	剖検症例数(例)	25例
	剖検率(%)	13.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児科から成人の消化管過誤腫性腫瘍好発症候群の医療水準とQOL向上のための研究	岡本 耕一	消化器内科	¥100,000	補委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	三木 浩和	血液内科	¥200,000	補委 厚生労働省
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究	早瀬 康信	地域小児科診療部	¥100,000	補委 厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥400,000	補委 厚生労働省
ナノマテリアル吸入曝露影響評価のための効率的慢性試験法の開発に関する研究	石丸 直澄	病理部	¥2,500,000	補委 厚生労働省
ナノマテリアルを含む化学物質の短期吸入曝露等による免疫毒性評価手法開発のための研究	石丸 直澄	病理部	¥3,000,000	補委 厚生労働省
びまん性肺炎患に関する調査研究	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥300,000	補委 厚生労働省
オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防戦略の確立に資する研究	河野 豊	消化器内科	¥500,000	補委 厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,300,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥550,000	補委 厚生労働省
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	和泉 唯信	脳神経内科	¥700,000	補委 厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥300,000	補委 厚生労働省
行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく臓器・組織移植啓発モデルの構築に関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥250,000	補委 厚生労働省
美容医療における医療安全を確保し、医療安全に係る諸制度との連携を実装して安全な美容医療のシステムを構築するための研究	橋本 一郎	形成外科・美容外科	¥100,000	補委 厚生労働省
もやもや病(ウイルス動脈輪閉塞症)における難病医療体制の整備や患者のQOL向上に資する研究	高木 康志	脳神経外科	¥500,000	補委 厚生労働省
標準的な生殖医療の知識啓発と情報提供のためのシステム構築に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥12,500,000	補委 こども家庭庁
性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発の研究	安井 敏之	産科婦人科	¥10,000,000	補委 厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	原田 雅史	放射線診断科	¥800,000	補委 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	原田 雅史	放射線診断科	¥200,000	補委 厚生労働省
放射線療法の提供体制構築に資する研究	生島 仁史	放射線治療科	¥300,000	補委 厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥400,000	補委 厚生労働省
ナノマテリアルを含む化学物質の短期吸入曝露等による免疫毒性評価手法開発のための研究	石丸 直澄	病理部	¥3,000,000	補委 厚生労働省
ナノマテリアル吸入曝露影響評価のための効率的慢性試験法の開発に関する研究	石丸 直澄	病理部	¥2,500,000	補委 厚生労働省
データマイニングと疾患モデルによる感染症と大動脈疾患の包括的な連関解明	石澤 啓介	薬剤部	¥5,460,000	補委 日本学術振興会
カーボネイトアパタイトの高い骨伝導能・骨再生能を細胞の分子メカニズムから解明する	宮本 洋二	口腔外科	¥3,640,000	補委 日本学術振興会

染色体不安定性に着目した大腸癌の抗癌剤耐性機序の解析	高山 哲治	消化器内科	¥5,980,000	補委	日本学術振興会
遺伝子改変マウスと未固定遺伝体を用いた動脈硬化の新規の病態解明と治療法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
肺がん・中皮腫における新たな抗原提示細胞の同定から革新的複合がん免疫療法への展開	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥5,850,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いた脂肪由来幹細胞からの超高機能肝細胞様細胞の確立	島田 光生	消化器・移植外科	¥4,810,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛に対するBH4代謝経路活性と新規治療法の基盤形成	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥4,290,000	補委	日本学術振興会
感覚機能と社会的繋がりに着目したフレイル発症・進展モデルと口腔機能管理戦略の確立	市川 哲雄	そしゃく科	¥5,980,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの診断と発症予防法の開発を目指した基盤・応用研究	阪上 浩	栄養部	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
免疫チューニング分子を基盤とした自己免疫疾患の新たな病因論の確立と治療戦略	石丸 直澄	病理部	¥14,560,000	補委	日本学術振興会
Exosomeエンジニアリングによる膀胱癌とその微小環境の改変を標的とする治療法の開発	佐藤 康史	消化器内科	¥6,500,000	補委	日本学術振興会
骨細胞保護によるがんの骨転移新規治療戦略の開発	日浅 雅博	矯正歯科	¥6,110,000	補委	日本学術振興会
糖尿病薬による大動脈解離発症予防効果の検討	近藤 正輝	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
新規消化性潰瘍治療薬ボンプラザンが抗VEGF薬の治療効果に与える影響	安藤 里英	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
SGLT2阻害剤によるシスプラチン誘発腎障害抑制メカニズムの解明	神田 将哉	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
医療情報データベースを活用したCOVID-19感染関連心筋炎のリスク因子探索	柴田 高洋	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
シンバスタチンによるパクリタキセル誘発末梢神経障害予防効果のメカニズム解明	高橋 志門	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータを活用した細菌感染症治療に影響を与える因子の解明	新田 綾香	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
ラモトリギンの副作用回避に向けた薬物相互作用解析	坂東 寛	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
シスプラチン誘発腎障害の克服を目指した新規予防薬の創出	吉岡 俊彦	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータを活用したサルコペニア治療候補の探索	石田 俊介	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータを活用したがん免疫療法関連心筋炎に対する治療薬の開発	西内 栞	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータを活用した薬剤性腎障害に対する新規予防戦略の開発	合田 光寛	薬剤部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
がん由来エクソソームによる筋細胞内代謝制御の解明とがん悪液質の克服	布川 朋也	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内線維細胞における時計遺伝子の機能解析と新規複合がん免疫療法開発への応用	三橋 惇志	呼吸器・膠原病内科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病におけるα-シヌクレイン凝集機序の解明と新規治療への応用	森野 豊之	ゲノム医療センター	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
ジストニア新規遺伝子機能の解明	宮本 亮介	脳神経内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
レディオオックス画像解析に基づく新たな放射線治療戦略構築に資する研究	生島 仁史	放射線治療科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
フォンタン循環症例の肺血管病変における血管外膜およびvasa vasorumの影響と治療応用	早渕 康信	地域小児科診療部	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
IL-33経路に着目した慢性肺炎患治療開発のための基盤研究	須賀 健一	地域小児科診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
3歳児検尿における慢性腎臓病と先天性腎尿路奇形の新規バイオマーカーの開発	漆原 真樹	小児科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会

AIを用いた切除可能肺癌に対する化学療法最適化を予測するためのmiRNAモデルの開発	宮本 弘志	消化器内科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
心不全判定AIモデルによる高リスク症例の同定と最適治療法の探求	楠瀬 賢也	循環器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
多元的フェロトーシス治療に基づく慢性腎臓病治療戦略の開発	田蒔 昌憲	腎臓内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞ADSCから誘導した肝細胞様細胞HLCの免疫原性獲得に関する研究	齋藤 裕	消化器・移植外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
腫瘍微小環境におけるexosomal micro RNA-Nrf2 addictionの機序解明と治療法の確立	森根 裕二	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬治療時におけるhyperprogressinのメカニズムの解明	吉川 幸造	消化器・移植外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺胞幹細胞を用いたがん幹細胞研究	河北 直也	呼吸器外科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害に影響を及ぼす特定歯周病菌の同定とその制御法の検討	兼松 康久	脳神経外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
ふたつの異なるモデルによるジストニア発症機序と治療ターゲットの解明	森垣 龍馬	脳神経外科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
患者由来癌組織を用いたRCC Precision Medicine Project	高橋 正幸	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
Mutant p53 - DDX31 axisから紐解くCancer Immunology Research	大豆本 圭	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
高齢前庭障害患者の転倒を予防する抗重力筋強化を融合した個別化平衡訓練法の開発	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
ストレッチ刺激を契機としたTRPV2陽性ケロイド由来線維芽細胞のシグナル伝達の解明	峯田 一秀	形成外科・美容外科	¥2,860,000	補委	日本学術振興会
組織透明化技術で明視化した皮弁内血管網構造の三次元的解析と皮弁灌流領域の解明	安倍 吉郎	形成外科・美容外科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
超小型THzチップを用いた高次メカノセンシングコンボジットレジ修復法の創出	保坂 啓一	むし歯科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳機能に着目した新規口腔機能訓練法の開発とその効果検証	後藤 崇晴	そしゃく科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
呼吸機能の%FEV1と%PEFから求める嚥下機能の客観的評価法の確立と検査機器の開発	松山 美和	歯科衛生室	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ局所制御機構を有する炭酸アパタイトの開発と骨再生機能低下の克服	福田 直志	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
歯周病が惹起する全身炎症性疾患の機序解明と酸化ストレス制御による予防法確立	高石 和美	歯科麻酔科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
骨補填材兼GBR用スプレーサー機能をもつ炭酸アパタイト/魚コラーゲンシートの開発	工藤 景子	口腔外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
小児OSAの菌科的治療は漏斗胸を改善するか？-流体力学的研究-	岩崎 智憲	小児歯科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞の骨芽細胞分化におけるメカノセンサー、メカトランスダクションの解明	赤澤 友基	小児歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
歯の発生を利用したin vivo分子機能アノテーション構築	泰江 章博	矯正歯科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
行動変容を導く保健関連因子の探索と国際的視点での口腔保健アウトカムへの介入効果	日野出 大輔	歯科衛生室	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔内細菌叢・内臓脂肪解析による新しい観点からのパレット食道進展メカニズムの解明	曾我部 正弘	消化器内科	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
高いpH感受性を持つGd造影剤開発のための基本的検討	松元 友暉	放射線診断科	¥2,990,000	補委	日本学術振興会
家族性大腸腺腫症の十二指腸腺腫に対するConnectivity Map解析に基づいた予防薬の開発	中村 文香	消化器内科	¥2,860,000	補委	日本学術振興会
DNase IIが血管の炎症と動脈硬化に与える影響の検討	原 知也	循環器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
消化器癌における化学療法耐性機序解明に関する研究	和田 佑馬	消化器・移植外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会

食道癌に対するPD-1阻害薬とケモカイン治療併用による抗腫瘍効果増強に関する研究	後藤 正和	食道・乳腺甲状腺外科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
miRNAを用いた食道癌個別化治療の可能性	井上 聖也	食道・乳腺甲状腺外科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
未固定遺体を用いた股関節面および大腿骨頭前後面における応力分布の動的評価	玉置 康晃	整形外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
ELK1を標的とした骨破壊抑制を併せ持つ新規抗腫瘍療法の開発	清水 宗	矯正歯科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
インプラント周囲炎の病態形成におけるS100蛋白とCandidalysinの影響に関する研究	西川 泰史	口腔インプラントセンター	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
筋痛モデルラットによる咀嚼筋受容機構解明ならびに治療法開発の基盤形成	生田目 大介	かみあわせ補綴科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
シェーグレン症候群におけるFam20Cおよびオステオポンチンの役割の解明と治療への応用	浪花 耕平	口腔内科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
骨破壊性悪性腫瘍の転移病変形成におけるDPP4の役割の解明	谷本 幸多朗	矯正歯科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
矯正用ライナーの計装化による矯正力と歯の移動量の定量評価	佐藤 博子	矯正歯科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症の治療方向性を規定する因子の探索	松井 尚子	脳神経内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢者糖尿病関連歯周炎患者のオーラルフレイルリスクバイオマーカーの探索	板東 美香	歯周病科	¥390,000	補委	日本学術振興会
末梢血miRNA発現解析による金属アレルギー疾患の新規診断バイオマーカーの確立	細木 真紀	かみあわせ補綴科	¥390,000	補委	日本学術振興会
加齢性サルコペニアへの炎症性サイトカインの関与とTAK1阻害による治療法の開発	遠藤 逸朗	内分泌・代謝内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
プロテインアレイを用いた肝細胞癌に対するレンチニブの新たなバイオマーカーの解明	友成 哲	消化器内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
線維細胞におけるインテグリンを標的とした肺線維症に対する新規抗線維化療法の開発	内藤 伸仁	呼吸器・膠原病内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
細胞外基質による線維細胞のmiR-21発現制御に着目した肺線維症の新規治療法開発	佐藤 正大	呼吸器・膠原病内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
肥満手術後腸内細菌叢を用いた新たな肥満治療開発に関する研究	柏原 秀也	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
鎮肛術後の排便機能障害に対する脂肪由来Schwann様細胞を用いた治療法の開発	石橋 広樹	小児外科・小児内視鏡外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
肝星細胞制御による薬剤耐性肝癌の肝内転移抑制機構の解明	居村 暁	消化器・移植外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
腫瘍微小環境における肥満細胞・癌関連線維芽細胞をターゲットとした治療法の開発	西 正暁	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
膵・胆管血流異常におけるNrf2 addictionを介した間質反応の解明	森 大樹	小児外科・小児内視鏡外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞による気管支の修復メカニズムの解明 iPS細胞による気管支断端癒着予防	坂本 晋一	呼吸器外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
自家蛍光顕微鏡画像を用いた肺腺癌浸潤AI予測モデル構築と術中診断への応用	滝沢 宏光	呼吸器外科	¥520,000	補委	日本学術振興会
抜管時の陽圧換気が呼吸機能に与える影響:経肺圧と電気インピーダンス法による評価	大藤 純	救急集中治療科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
女性においてアンドロゲンが栄養代謝機能に及ぼす影響とその機序に関する検討	岩佐 武	産科婦人科	¥910,000	補委	日本学術振興会
スクロスタチンを新規標的のマーカーとした糖尿病関連歯周炎の非侵襲的診断法の開発	稲垣 裕司	歯周病科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎の歯周治療による糖尿病改善効果を指背毛細血管を用いて可視化する	美原 智恵	総合歯科診療部	¥650,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎における歯周組織細胞由来エクソソームの総合的研究	生田 貴久	高次歯科診療部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
歯周医学における歯周病原細菌由来ベシクルの役割解明と歯周病重症化予防剤の開発	湯本 浩通	歯周病科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会

睡眠時低血糖とブラキシズムの関係	大倉 一夫	かみあわせ補綴科	¥780,000	補委	日本学術振興会
セマフォリンを用いた歯科金属アレルギーの病態制御	渡邊 恵	そしゃく科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
microRNAを用いた金属アレルギーによる口腔扁平苔癬の新規診断マーカーの確立	田島 登誉子	かみあわせ補綴科	¥390,000	補委	日本学術振興会
感染制御と骨再生を同時に可能とするハイブリッド型骨補填材による顎骨骨髄炎治療戦略	高丸 菜都美	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
Lubricinによる変形性顎関節症に対する新規治療法の開発	栗尾 奈愛	口腔外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
口内法デジタルX線撮影検出器を応用した原子力利用における漏洩放射能検出システム	吉田 みどり	歯科放射線科	¥520,000	補委	日本学術振興会
機能的スクリーニングから独自に選出した新規microRNAによる口腔癌治療の開発	上杉 篤史	口腔外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
超遠心法による分画抽出血清のプロテオーム解析を利用した新規硬組織形成誘導法の開発	上田 公子	小児歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
特発性下顎頭吸収における骨・軟骨破壊機構とMCP-1の関連性の解明	岩浅 亮彦	矯正歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢者の肺炎および口臭予防を目的とした新規口腔環境改善手法の確立	福井 誠	歯科衛生室	¥780,000	補委	日本学術振興会
ウイズコロナ時代の遠隔解析による歯科的身元確認法の開発	高野 栄之	口腔管理センター	¥390,000	補委	日本学術振興会
診療参加型臨床実習に必要な汎用的能力の研究	赤池 雅史	循環器内科	¥650,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸による骨格筋脂肪化抑制を標的とした心不全サルコペニアに対する栄養療法の開発	八木 秀介	循環器内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
1日70球の投球数制限で小学生の野球肘を予防できるのか？骨軟骨障害に着目して	松浦 哲也	リハビリテーション部	¥780,000	補委	日本学術振興会
IoTとスマートスピーカーを活用した個別化糖尿病自己管理支援プログラムの実証研究	松久 宗英	内分泌・代謝内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
Withコロナに対応した高度オンライン臨床実習システムの構築と効果の検証	伊勢 孝之	循環器内科	¥650,000	補委	日本学術振興会
Deep learningを用いた胸部X線画像における肺高血圧病態分類の取り組み	渡部 有紀奈	検査部	¥780,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内免疫療法を用いた新規複合がん免疫療法の効果規定因子を同定する試み	荻野 広和	呼吸器・膠原病内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
フィトケミカル含有食品エソウコギによる、新しいNAFLD/NASH治療法の開発	河野 豊	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
軟部腫瘍のアミノ酸代謝解析とアミドプロトン解析に着目したマルチ分子イメージング	新家 崇義	放射線診断科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
放射線治療後の心筋障害に対する早期の定量的評価法の確立と心不全の予知	音見 暢一	放射線診断科	¥130,000	補委	日本学術振興会
鋸歯状ポリボース症候群の左側及び右側大腸癌の分子生物学的差異の解析	岡本 耕一	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における新規病態制御因子の臨床的意義と分子機構の解明	栗飯原 賢一	内分泌・代謝内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
腎NMN輸送体を介した遠位・近位尿管連関の解明	長谷川 一宏	腎臓内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
RNA編集酵素ADARが司る骨髄腫の進展様式と免疫逃避機構の解明	原田 武志	血液内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
脂肪幹細胞由来Schwann様細胞の骨髄内臓神経再生促進効果に関する研究	徳永 卓哉	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
自己脂肪由来インスリン産生細胞自家移植における抗原性発現と細胞運命の研究	池本 哲也	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
NASHにおける肝転移抑制の機序解明に関する研究	山田 眞一郎	消化器・移植外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
Nrf2を介したTAM-cancerクロストークによる肝癌薬剤耐性機序の解明	高須 千絵	消化器・移植外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会

人工知能を用いた食道癌の気管・気管支浸潤の診断—診断基準の確立—	藤原 聡史	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺幹細胞～その性格とオルガノイドを用いた肺再生研究	鳥羽 博明	呼吸器外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬のSirtを介した心筋保護作用に対して高血糖状態が与える影響	角田 奈美	麻酔科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
脳動静脈奇形における血管内皮のKRAS変異とPAD4活性化の関係	高木 康志	脳神経外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症の病因におけるCdk5/ERK回路の役割	三田村 佳典	眼科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢性テストステロン低下とAGE上昇に着目した糖尿病関連歯周炎の治療戦略	成石 浩司	歯周病科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
乳酸菌由来細胞外小胞を用いた歯周病治療戦略—M1/M2マクロファージに着目して—	細川 育子	むし歯科	¥650,000	補委	日本学術振興会
ポリフェノール内包キトサンナノカプセルを用いた口腔バイオフィルム抑制技術の開発	尾崎 和美	むし歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
ワサビ含有成分を歯周炎治療に用いるための基礎的研究～抗炎症作用に着目して～	細川 義隆	むし歯科	¥780,000	補委	日本学術振興会
歯科用レジシメントの通電剥離は万能か—導電性の向上と維持—	武川 恵美	高次歯科診療部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛モデル動物の精油の嗅覚刺激による痛み刺激の軽減と脳神経メカニズムの解明	井上 美穂	かみあわせ補綴科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔・認知機能Web評価システムの地域展開による健口・健康長寿実現戦略	瀬山 真莉子	歯科衛生室	¥910,000	補委	日本学術振興会
歯科再生医療の実現に向けた再生器官サイズ・形態形成の分子メカニズムの解明と応用	大島 正充	かみあわせ補綴科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
唾液腺幹/前駆細胞の維持・再生に関わる遺伝子の同定と新たな口腔乾燥症治療への応用	山村 佳子	口腔外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
免疫細胞フェノタイプによるシェーグレン症候群の個別化医療の構築	青田 桂子	口腔内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛の治療成績を向上する試み—照明の照度・色調は治療成績に影響するの？—	桃田 幸弘	口腔内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
小児鼻腔通気障害に対する歯科的治療法の開拓と治療効果の検討	北村 尚正	小児歯科	¥780,000	補委	日本学術振興会
オゾン水の歯科医療環境感染予防対策実用化に向けた研究	渡辺 朱理	歯科衛生室	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ゲーム障害児・者の脳血流動態に関する研究—NIRSによる脳機能評価—	森 健治	小児科	¥910,000	補委	日本学術振興会
OSA患者のいびきの周波数解析から発生メカニズム解明と新たな口腔内装置開発の試み	安倍 晋	総合歯科診療部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
腹水濾過濃縮再静注法の発熱機序の解明と発熱予防法の確立	岡久 稔也	消化器内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂におけるエフェロサイトーシスの役割解明	宮本 健志	脳神経外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
カプサイシン軟膏を用いた嚥下性肺炎の予防法の開発:メカニズムの解明と臨床への応用	近藤 英司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥390,000	補委	日本学術振興会
3D培養腎細胞を用いた腎臓病早期診断法の開発と新規治療薬探索	越智 ありさ	腎臓内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞障害に着目した新生児急性呼吸窮迫症候群の病態解明と治療法の開発	鈴江 真史	小児科	¥910,000	補委	日本学術振興会
全ゲノムシーケンス法による小腸腺癌遺伝子の網羅的解析と治療薬開発の基盤研究	藤本 将太	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
核酸受容体が血管の炎症と動脈硬化に与える影響の検討	数藤 久美子	循環器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
医原性横隔膜損傷の関連因子の解明と予防法の開発	板垣 大雅	ER・災害医療診療部	¥650,000	補委	日本学術振興会
子宮腺筋症の新しいモデルマウスの開発と新しい治療戦略の検討	河北 貴子	産科婦人科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会

新規イメージング技術による歯科診断の革命	米倉 和秀	むし歯科	¥910,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛モデルにおけるグリア細胞機能抑制による鎮痛メカニズムの解明	岩浅 匠真	かみあわせ補綴科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
滑走運動経路と咀嚼運動経路の差に基づくCAD/CAM冠咬合形態の臨床的検討	大川 敏永	総合歯科診療部	¥260,000	補委	日本学術振興会
AI技術と口腔内スキャナを利用した顎堤形状推定法の開発	松田 岳	そしゃく科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
MDB活用による抗がん剤誘発性末梢神経障害予防薬の確立	相澤 風花	薬剤部	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
大規模医療情報を用いた薬剤性心筋炎治療薬の探索および有効性の検証	新村 貴博	総合臨床研究センター	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
慢性骨髄性白血病再発防止を目指した新規治療法の開発	八木 健太	総合臨床研究センター	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
CT撮影における各臓器の医療被曝量の測定と被曝量低減効果の検討	山下 一太	整形外科	¥910,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌に対する新規分子標的薬併用化学放射線療法の相乗効果とその機序	田中 宏典	消化器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
左側及び右側大腸癌の分子生物学的差異の解析 個別化及び層別化治療に向けて	影本 開三	消化器内科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた肺癌の化学療法の治療効果を予測するmiRNAモデルの開発	岡田 泰行	消化器内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
多種肺線維症マウスモデル間のシングルセル解析データ比較による炎症細胞機能の解析	小山 壱也	呼吸器・膠原病内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
光受容体Opsin3を介した青色LED光による消化器癌薬剤耐性解除に関する研究	良元 俊昭	消化器・移植外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
脳内微量出血模倣モデルにおける認知症関連蛋白発現機序の解明と制御	原 慶次郎	脳神経外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
歯周病病態におけるリポカリン2の機能と作用機序の解明	木戸 理恵	歯周病科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
VEGF産生と抗炎症効果を期待した根尖性歯周炎治療に対するCAPEの発展的研究	蔵本 瞳	むし歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
ポリウレタン・スポンジを気孔形成材とした炭酸アパタイト多孔体の開発と骨再生医療	秋田 和也	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
口腔機能不全症の3Dモデル構築とその治療法に関する検討	河原林 啓太	小児歯科	¥910,000	補委	日本学術振興会
軟部肉腫薬物療法患者におけるePROモニタリングシステムの開発	土岐 俊一	整形外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
分泌されたEYSが網膜色素上皮細胞の食能に与える影響の解析	梶田 敬介	眼科	¥2,902,119	補委	日本学術振興会
ドパミントランスポーターイメージングの病理学的基盤の解明	松原 知康	脳神経内科	¥1,025,493	補委	日本学術振興会
免疫難病における自己抗体産生機序の解明と多角的臨床応用	石丸 直澄	病理部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
シスプラチン誘発腎障害の原因にアプローチする新たな予防戦略の開発	神田 将哉	薬剤部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
唾液腺間葉系細胞が口腔乾燥症にもたらす影響の探索	福場 真美	口腔内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
新規癌骨病変形成因子NEO1の分子機序の解明とバイオマーカーとしての診断法の開発	中上 絵美子	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯周病細菌由来外膜小胞の歯周病における役割および病態解明	植村 勇太	歯周病科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織の制御に立脚した、骨病変を伴うがんに対する新規治療法の開発。	比嘉 佳基	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌および重複癌における潜在的口腔ポリオマウイルスの関わり	北村 直也	総合歯科診療部	¥895,992	補委	日本学術振興会
動脈硬化における血管部の微小炎症の検出法と制御法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥7,800,000	補委	日本医療研究開発機構

四国における未診断疾患への包括的取り組み	和泉 唯信	脳神経内科	¥10,400,000	補 委	日本医療研究 開発機構
慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥325,000	補 委	日本医療研究 開発機構
生殖補助医療における出生児の長期予後と新規医療技術の影響に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥11,637,999	補 委	日本医療研究 開発機構
医療ビッグデータ解析、臨床薬理学と細菌学の融合による薬剤耐性細菌感染症に対する新規治療法開発プラットフォームの構築	石澤 啓介	薬剤部	¥9,620,000	補 委	日本医療研究 開発機構
スーパーエンハンサー制御遺伝子群を標的にする新規治療薬の開発	原田 武志	血液内科	¥2,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
3次元回転浮遊培養分化誘導法による新規肝細胞様細胞の研究開発	島田 光生	消化器・移植外科	¥3,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
認知症疾患・パーキンソン病関連疾患の“脳構造ネットワーク”による診断法の開発	藤田 浩司	脳神経内科	¥3,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
遺伝子治療時代のALS治験即応型レジストリ整備とサロゲートマーカーの探索	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,040,000	補 委	日本医療研究 開発機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	沼田 周助	精神科神経科	¥390,000	補 委	日本医療研究 開発機構
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	原田 武志	血液内科	¥9,750,000	補 委	日本医療研究 開発機構
プリオン病国際医師主導治験獲得のためのプリオン病早期診断基準の作成と非侵襲性診断法の開発	藤田 浩司	脳神経内科	¥650,000	補 委	日本医療研究 開発機構
病的バリエーションを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,950,000	補 委	日本医療研究 開発機構
A-253 胸部腫瘍および肺線維症制御に向けたfibrocyte特異抗体の開発	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥2,354,999	補 委	日本医療研究 開発機構
家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入検証	高山 哲治	消化器内科	¥1,499,999	補 委	日本医療研究 開発機構
女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	安井 敏之	産科婦人科	¥390,000	補 委	日本医療研究 開発機構
肝臓における治療抵抗性メカニズムに関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥910,000	補 委	日本医療研究 開発機構
周産期・小児領域における高品質臨床研究推進のための臨床研究コンソーシアム	岩佐 武	産科婦人科	¥860,000	補 委	日本医療研究 開発機構
レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備	和泉 唯信	脳神経内科	¥5,200,000	補 委	日本医療研究 開発機構
トライアルレディコホート構築に向けた近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパシー(HMSN-P)のレジストリ研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥2,600,000	補 委	日本医療研究 開発機構
SOD1変異ALSに対する遺伝子編集治療法の開発	和泉 唯信	脳神経内科	¥2,600,000	補 委	日本医療研究 開発機構
精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	沼田 周助	精神科神経科	¥390,000	補 委	日本医療研究 開発機構
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	沼田 周助	精神科神経科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究 開発機構
もやもや病の出血性脳卒中予防と長期予後改善を目指す多施設共同研究	高木 康志	脳神経外科	¥260,000	補 委	日本医療研究 開発機構
AI技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	沼田 周助	精神科神経科	¥2,600,000	補 委	日本医療研究 開発機構
難治性がんを標的とした先端的がん特異的抗体創製基盤技術開発とその医療応用	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥5,980,000	補 委	日本医療研究 開発機構
表情から認知症を判別するアプリの開発研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥3,900,000	補 委	日本医療研究 開発機構
自己脂肪組織より精製した脂肪由来幹細胞から製造したinsulin producing cell自家移植による次世代の1型糖尿病治療法確立に対する医師主導治験	池本 哲也	安全管理部	¥84,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための第2相医師主導治験	和泉 唯信	脳神経内科	¥650,000	補 委	日本医療研究 開発機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスクエアサービスの適正評価確立のための研究	松久 宗英	糖尿病対策センター	¥1,300,000	補 委	日本医療研究 開発機構

CBCT画像からの正確かつ迅速な顎骨の オートセグメンテーション手法の開発	渡邊 佳一郎	矯正歯科	¥659,076	補 委	科学技術振興 機構
--	--------	------	----------	--------	--------------

計229件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ugantsetseg Munkhjargal, Daiju Fukuda, Byambasuren Ganbaatar 他	循環器内科	A Selective Mineralocorticoid Receptor Blocker, Esaxerenone, Attenuates Vascular Dysfunction in Diabetic C57BL/6 Mice	J Atheroscler Thromb. 2023 Apr 1;30(4):326-334	Original Article
2	Kenya Kusunose, Yukina Hirata, Natsumi Yamaguchi 他	循環器内科	Deep learning approach for analyzing chest x-rays to predict cardiac events in heart failure	Front Cardiovasc Med. 2023 May 19;10:1081628	Original Article
3	Shusuke Yagi, Tomoya Hara, Hirotsugu Yamada 他	循環器内科	Intimal Sarcoma of the Pulmonary Artery as an Embolic Cause of Sudden Death	Circ J.2023 Jun 23;87(7):1036	Others
4	Kenya Kusunose, Shuichiro Kashima, Masataka Sata	循環器内科	Evaluation of the Accuracy of ChatGPT in Answering Clinical Questions on the Japanese Society of Hypertension Guidelines	Circ J.2023 Jun 23;87(7):1030-1033	Review
5	Natsumi Yamaguchi, Yoshitaka Kosaka, Akihiko Haga 他	循環器内科	Artificial intelligence-assisted interpretation of systolic function by echocardiogram	Open Heart. 2023 Jul;10(2):e002287	Original Article
6	Tomonori Takahashi, Hiroyuki Iwano, Kentaro Shibayama 他	循環器内科	The Clinical Utility of Noninvasive Forrester Classification in Acute Heart Failure from PREDICT Study	Am J Cardiol.2023 Nov 15;207:75-81	Review
7	Tomoya Hara, Daiju Fukuda, Byambasuren Ganbaatar 他	循環器内科	Olive mill wastewater and hydroxytyrosol inhibits atherogenesis in apolipoprotein E-deficient mice	Heart Vessels. 2023 Nov;38(11):1386-1394. Epub 2023 Jul 18	Review
8	Munkhtsetseg Tserenonon, Shusuke Yagi, Takayuki Ise 他	循環器内科	Lipoprotein (a) is a risk factor of aortic valve calcification in patients with a risk of atherosclerosis	J Med Invest. 2023;70(3.4):450-456	Review

9	Phuong Tran Pham, Oyunbileg Bavuu, Joo-Ri Kim-Kaneyama 他	循環器内科	Innate Immune System Regulated by Stimulator of Interferon Genes, a Cytosolic DNA Sensor, Regulates Endothelial Function	J Am Heart Assoc.2023 Nov 10;12(22):e030084	Original Article
10	Yuichiro Okushi, Yoshihito Saijo, Hirotosugu Yamada 他	循環器内科	Effectiveness of surveillance by echocardiography for cancer therapeutics- related cardiac dysfunction of patients with breast cancer	J Cardiol. 2023 Dec;82(6):467- 472	Review
11	Kenya Kusunose, Takumasa Tsuji, Yukina Hirata 他	循環器内科	Unsupervised cluster analysis reveals different phenotypes in patients after transcatheter aortic valve replacement	Eur Heart J Open. 2023 Dec 20;4(1):oead136	Original Article
12	Yukina Hirata, Yuka Nomura, Yoshihito Saijo 他	循環器内科	Reducing echocardiographic examination time through routine use of fully automated software: a comparative study of measurement and report creation time	J Echocardiogr. 2024 Feb 3	Review
13	Sae Morita, Yukina Hirata, Susumu Nishio 他	循環器内科	Correlation between energy loss index and B- type natriuretic peptide: a vector flow mapping study	J Echocardiogr. 2024 Mar;22(1):25-33	Review
14	Yukina Hirata, Takumasa Tsuji, Jun'ichi Kotoku 他	循環器内科	Echocardiographic artificial intelligence for pulmonary hypertension classification	Heart.2024 Mar 22;110(8):586- 593	Review
15	Yoshihito Saijo, Kenya Kusunose, Tomonori Takahashi 他	循環器内科	Impact of Transcatheter Aortic Valve Replacement on Cardiac Reverse Remodeling and Prognosis in Mixed Aortic Valve Disease	J Am Heart Assoc. 2024 Feb 20;13(4):e033289	Original Article
16	Yasuhiko Nishioka, Sakae Homma, Takashi Ogura 他	呼吸器・膠原病内科	Exploratory phase 2 study of TAS-115, a novel oral multikinase inhibitor, in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Investig. 2023 Jul;61(4):498-507	Original Article
17	Takeshi Imakura, Seidai Sato, Kazuya Koyama 他	呼吸器・膠原病内科	A polo-like kinase inhibitor identified by computational repositioning attenuates pulmonary fibrosis.	Respir Res. 2023 Jun; 24: 148 (オンライン)	Original Article
18	Hiroki Takahashi, Hirokazu Ogino, Hiroki Bando 他	呼吸器・膠原病内科	FoundationOne CDx detected an uncovered variant of epidermal growth factor receptor exon 19 deletion by Oncomine Dx target test in a patient with lung adenocarcinoma.	Respir Med Case Rep. 2023 Jul; 45:101893 (オンライン)	Case report

19	Saki Harada, Takeshi Imakura, Seidai Sato 他	呼吸器・膠原病内科	A case of successful treatment with eltrombopag for severe immune-related thrombocytopenia induced by atezolizumab: Case report.	J Med Invest. 2023 Aug; 70: 516-520	Case report
20	Seidai Sato, Kazuya Koyama, Hirohisa Ogawa 他	呼吸器・膠原病内科	A novel BRD4 degrader, ARV-825, attenuates lung fibrosis through senolysis and antifibrotic effect.	Respir Investig. 2023 Nov; 61: 781-792	Original Article
21	Yohei Yabuki, Masaki Hanibuchi, Eiji Takeuchi 他	呼吸器・膠原病内科	A multicenter, open-label, phase II trial of pemetrexed plus bevacizumab in elderly patients with previously untreated advanced or recurrent nonsquamous non-small cell lung cancer	Thorac Cancer. 2023 Nov; 14: 3232-3239	Original Article
22	Hiroto Yoneda, Atsushi Mitsuhashi, Aito Yoshida 他	呼吸器・膠原病内科	Antipodoplanin antibody enhances the antitumor effects of CTLA-4 blockade against malignant mesothelioma by natural killer cells	Cancer Sci. 2024 Feb; 115: 357-368	Original Article
23	Hiroyuki Kozai, Hirokazu Ogino, Atsushi Mitsuhashi 他	呼吸器・膠原病内科	Potential of fluoropyrimidine to be an immunologically optimal partner of immune checkpoint inhibitors through inducing immunogenic cell death for thoracic malignancies.	Thorac Cancer. 2024 Feb; 15: 369-378	Original Article
24	Masaki Hanibuchi, Hirokazu Ogino, Seidai Sato 他	呼吸器・膠原病内科	Current pharmacotherapies for advanced lung cancer with pre-existing interstitial lung disease : A literature review and future perspectives.	J Med Invest. 2024 Feb; 71: 9-22	Review
25	Masato Mima, Seidai Sato, Takayoshi Shinya 他	呼吸器・膠原病内科	Characteristics of chest high-resolution computed tomography in patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody-positive interstitial lung disease.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2024 Mar; 41: e2024005 (オンライン)	Original Article
26	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Miwako Kagawa 他	消化器内科	Association of metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease with erosive esophagitis development: a longitudinal observational study.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Feb 29. Online ahead of print.	Original Article

27	Akinari Kasai, Jinsei Miyoshi, Yasushi Sato 他	消化器内科	A novel CT-based radiomics model for predicting response and prognosis of chemoradiotherapy in esophageal squamous cell carcinoma.	Sci Rep. 2024 Jan 23;14(1):2039.	Original Article
28	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Miwako Kagawa 他	消化器内科	Association of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease with gallstone development: A longitudinal study.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Jan 11. Online ahead of print.	Original Article
29	Yutaka Kawano, Maki Tanaka, Yasushi Satoh 他	消化器内科	Acanthopanax senticosus ameliorates steatohepatitis through HNF4 alpha pathway activation in mice.	Sci Rep. 2024 Jan 2;14(1):110.	Original Article
30	Tetsu Tomonari, Joji Tani, Yasushi Sato 他	消化器内科	Clinical Features and Outcomes of Conversion Therapy in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Cancers (Basel). 2023 Oct 30; 15(21):5221	Original Article
31	Tomoyuki Kawaguchi, Koichi Okamoto, Shota Fujimoto 他	消化器内科	Lansoprazole inhibits the development of sessile serrated lesions by inducing G1 arrest via Skp2/p27 signaling pathway	J Gastroenterol. 2024 Jan;59(1):11-23	Original Article
32	Tetsuji Takayama, Naoki Muguruma, Masahiro Igarashi 他	消化器内科	Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Cowden Syndrome/PTEN Hamartoma Tumor Syndrome in Children and Adults-Secondary Publication.	J Anus Rectum Colon. 2023 Oct 25; 7(4): 284-300.	Review
33	Yasushi Sato, Koichi Okamoto, Yutaka Kawano 他	消化器内科	Novel Biomarkers of Gastric Cancer: Current Research and Future Perspectives.	J Clin Med. 2023 July; 12: 4646.	Review
34	Ryo Shinomiya, Yasushi Sato, Takanori Yoshimoto 他	消化器内科	A case of treatment-resistant advanced gastric cancer with FGFR2 gene alteration successfully treated with pemigatinib.	International Cancer Conference Journal. 2024 Mar 9;13: 240-244	Case report

35	Reiko Yokoyama, Yasushi Sato, Fumika Nakamura 他	消化器内科	Efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with anorectal melanoma in association with immune-related adverse events: a case series.	Clin J Gastroenterol. 2023 Dec;16(6):842-847.	Case report
36	Koichi Okamoto, Tomoyuki Kawaguchi, Kaizo Kagemoto 他	消化器内科	"Tip-in underwater endoscopic mucosal resection" without submucosal injection for superficial nonampullary duodenal adenomas.	Endoscopy. 2023 Dec; 55(S 01): E965-E966.	Case report
37	Takahashi T, Sato Y, Kashihara T 他	消化器内科	Nintedanib-Induced Gastric Antral Vascular Ectasia in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	ACG Case Rep J. 2023 July; 10: e01107.	Case report
38	Kazuhiro Hasegawa, Yusuke Sakamaki, Masanori Tamaki 他	腎臓内科	PCK1 Protects against Mitochondrial Defects in Diabetic Nephropathy in Mouse Models.	J Am Soc Nephrol. 2023 Aug 1;34(8):1343-1365.	Original Article
39	Kimiko Sogabe, Shingen Nakamura, Yoshiki Higa 他	血液内科	Acute accumulation of PIM2 and NRF2 and recovery of Beta5 subunit activity mitigate multiple myeloma cell susceptibility to proteasome inhibitors.	Int J Hematol. 2024 Mar;119(3):303-315.	Original Article
40	Tomoko Maruhashi, Hirokazu Miki, Kimiko Sogabe 他	血液内科	Acute suppression of translation by hyperthermia reinforces anti-myeloma activity of carfilzomib.	Int J Hematol. 2024 Mar;119(3):291-302.	Original Article
41	Masahiro Oura, Takeshi Harada, Asuka Oda 他	血液内科	Therapeutic efficacy of the resorcylic acid lactone LL-Z1640-2 for adult T-cell leukaemia/lymphoma.	EJHaem. 4(3):667-678, 2023 Jul 27	Original Article
42	Hiroki Yamagami, Tomoyo Hara, Saya Yasui 他	内分泌・代謝内科	Cross-sectional and Longitudinal Associations between Skin Autofluorescence and Tubular Injury Defined by Urinary Excretion of Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein in People with Type 2 Diabetes.	Biomedicines. 11(11):3020, 2023.Nov	Original Article
43	Masahiro Hiasa, Itsuro Endo, Toshio Matsumoto	矯正歯科	Bone-fat linkage via interleukin-11 in response to mechanical loading.	Journal of Bone and Mineral Metabolism. 2024 Feb 7. Online ahead of print.	Review

44	Yudai Joko, Yoko Yamamoto, Shigeaki Kato 他	血液内科	VDR is an essential regulator of hair follicle regression through the progression of cell death.	Life Sci Alliance. 6(11):e202302014, 2023.Sep	Original Article
45	Shiho Masuda, Tomoyo Hara, Hiroki Yamagami 他	血液内科	Vascular Endothelial Function Is Associated with eGFR Slope in Female and Non-Smoking Male Individuals with Cardiovascular Risk Factors: A Pilot Study on the Predictive Value of FMD for Renal Prognosis.	J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1;30(11):1727-1741.	Original Article
46	Naoto Okada, Shimizu Taro, Hidenori Ando 他	薬剤部	Clinical Impact of Antipolyethylene Glycol (PEG) Antibody in Hematological Patients Administered PEGylated-Granulocyte Colony-Stimulating Factor	Clin Pharmacol Drug Dev. 2023 Aug;12(8):826-831.	Original Article
47	Yasuyuki Omichi, Shunichi Toki, Toshihiko Nishisho 他	整形外科	Atypical femoral fracture in a multiple myeloma patient undergoing treatment with denosumab: A case report and literature review.	Int J Surg Case Rep. Volume 108, July 2023, 108456.	Case report
48	Emiko Nakaue, Jumpei Teramachi, Hirofumi Tenshin 他	矯正歯科	Mechanisms of preferential bone formation in myeloma bone lesions by proteasome inhibitors.	Int J Hematol. 2023 Jul;118(1):88-98.	Original Article
49	Shotaro Haji, Ryosuke Miyamoto, Hiroyuki Morino 他	脳神経内科	Autosomal Recessive Spinocerebellar Ataxia Type 9 With a Response to Phosphate Repletion: A Case Report	A case report. Neurol Genet.2023 May;9:e200070.	Case report
50	Taiki Hori, Shingen Nakamura, Hiroki Yamagami 他	内分泌・代謝内科	Phase angle and extracellular water-to-total body water ratio estimated by bioelectrical impedance analysis are associated with levels of hemoglobin and hematocrit in patients with diabetes.	Heliyon. 2023 Mar 21;9(4):e14724.	Original Article
51	Jumpei Teramachi, Hirokazu Miki, Shingen Nakamura 他	血液内科	Myeloma bone disease: pathogenesis and management in the era of new anti-myeloma agents.	J Bone Miner Metab. 2023 May;41(3):388-403.	Review
52	Tomoyo Hara, Ryoko Uemoto, Akiko Sekine 他	血液内科	Plasma Heparin Cofactor II Activity Is Inversely Associated with Hepatic Fibrosis of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.	J Atheroscler Thromb. 2023 Aug 1;30(8):871-883.	Original Article

53	Shun Sawatsubashi, Yuichi Takashi, Itsuro Endo 他	内分泌・代謝内科	Familial cases with adult-onset FGF23-related hypophosphatemic osteomalacia -A PHEX 3' -UTR change as a possible cause	Bone. 2024;182:117057. Epub 2024 feb 25	Case report
54	Takaaki Samura, Eiki Fujimoto, Hiroki Hata	心臓血管外科	Novel technique of entry to re-entry stent grafting enables not only to exclude false lumen but also to perfuse renal artery in patients with chronic Type B aortic dissection	Eur Heart J Case Rep. • 2023 Aug 17;7(9):ytad408. doi: 10.1093/ehjcr/ytad408.	Case report
55	Takaaki Samura, Eiki Fujimoto, Takayuki Ise 他	心臓血管外科	Thick endothelialization of the self-expandable valve causes delayed coronary obstruction	Eur J Cardiothorac Surg. • 2024 Feb 1;65(2):ezae056. doi: 10.1093/ejcts/ezae056.	Case report
56	Katsuhito Hori, Yutaro Sasaki, Keito Shiozaki 他	泌尿器科	Efficacy of fresh-frozen cadaveric surgical training for arteriovenous fistula in vascular access	J Vasc Access. 2023 Apr(オンライン)	Original Article
57	Megumi Tsuda, Tomoya Fukawa, Yasuyo Yamamoto 他	泌尿器科	Impact of early urinary catheter removal on successful voiding and physical function in stroke patients	J Med Invest. 2023 Aug;70(3.4):436-442	Original Article
58	Masayuki Takahashi, Kei Daizumoto, Tomoya Fukawa 他	泌尿器科	Insulin receptor expression to predict resistance to axitinib and elucidation of the underlying molecular mechanism in metastatic renal cell carcinoma	Br J Cancer. 2023 Aug;129(3):521-530	Original Article
59	Yutaro Sasaki, Kei Daizumoto, Kyotaro Fukuta 他	泌尿器科	Lymph node dissection during radical cystectomy for bladder cancer: A two-center comparative study of robotic versus open surgery	Asian J Endosc Surg. 2023 Oct;16(4):724-730.	Original Article
60	Yoshito Kusuhara, Tomoya Fukawa, Tomoharu Fukumori 他	泌尿器科	Effect of Positive Biopsy Core Rate on Low-dose-rate Brachytherapy Outcomes in Intermediate-risk Prostate Cancer	Anticancer Res. 2023 Oct;43(10):4627-4635	Original Article
61	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Kei Daizumoto 他	泌尿器科	Assistent guide short: A new device for facilitating ureteric stenting in women	Int J Urol. 2023 Nov;30(11):1051-1052.	Original Article

62	Yutaro Sasaki, Yasuyo Yamamoto, Saki Kobayashi 他	泌尿器科	A case of laparoscopically assisted transperineal repair of anterior enterocele dehiscence with small bowel evisceration after robot-assisted radical cystectomy	Urol Case Rep. 2023 Nov 52:102629. (オンライン)	Case report
63	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Keito Shiozaki 他	泌尿器科	The importance of laparoscopic surgery for young urologists remains unwavering even in the era of robot-assisted surgery	Asian J Endosc Surg. 2024 Jan;17(1):e13254.	Original Article
64	Yutaro Sasaki, Kazuyoshi Izumi, Kyotaro Fukuta 他	泌尿器科	Impact of lymph node dissection on surgical and oncological outcomes in patients undergoing robot-assisted radical cystectomy for bladder cancer: a multicenter retrospective study	J Robot Surg. 2024 Mar 30;18(1):141	Original Article
65	Shoko Yamashita, Chie Takasu, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Characteristic submucosal alteration in biliary carcinogenesis of pancreaticobiliary maljunction with a focus on inflammasome activation	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Apr;30(4):462-472.	Original Article
66	Shuhai Chen, Yuji Morine, Y U Saito 他	消化器・移植外科	TU-100 Antagonizes the M2 Polarization Phenotype of Macrophages in the Tumor Microenvironment by Suppressing the TLR4/NF- κ B/STAT3 Axis	Anticancer Res. 2023 May;43(5):1985-1992.	Original Article
67	Yuji Morine, Yu Saito, Shinichiro Yamada 他	消化器・移植外科	Multiplication of tumor maximum diameter and number as a new surgical indicator for Barcelona Clinic Liver Cancer intermediate-stage hepatocellular carcinoma	Hepatol Res. 2023 Jun;53(6):531-539.	Original Article
68	Yuhei Waki, Yu Saito, Shuhai Chen 他	消化器・移植外科	Effects of green light-emitting diode irradiation on hepatic differentiation of hepatocyte-like cells generated from human adipose-derived mesenchymal cells	Sci Rep. 2023 Nov 15;13(1):19954.	Original Article

69	Yuhei Waki, Yuji Morine, Takayuki Noma 他	消化器・移植外科	Association between high expression of intratumoral fibroblast activation protein and survival in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma	BMC Gastroenterol. 2023 Nov 28;23(1):415.	Original Article
70	Yu Saito, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Preoperative Weight Loss Program for Hepatocellular Carcinoma Patients with High Body Mass Index in Hepatectomy	World J Surg. 2023 Dec;47(12):3348-3355.	Original Article
71	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Jun Higashijima 他	消化器・移植外科	Usefulness of Diagnostic Staging Laparoscopy for Advanced Gastric Cancer	Am Surg. 2023 Apr;89(4):685-690.	Original Article
72	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga 他	消化器・移植外科	The application of enhanced recovery after surgery in total gastrectomy: a propensity score-matched analysis	World J Surg Oncol. 2023 May 16;21(1):148.	Original Article
73	Masaaki Nishi, Yuma Wada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Utility of robotic surgery for Siewert type II/III adenocarcinoma of esophagogastric junction: transhiatal robotic versus laparoscopic approach	BMC Surg. 2023 May 16;23(1):128.	Original Article
74	Toshiaki Yoshimoto, Kozo Yoshikawa, Toshihiro Nakao 他	消化器・移植外科	Surgical Outcomes of Gastrectomy in Hemodialysis Patients with Gastric Cancer	Am Surg. 2023 Dec;89(12):6328-6330.	Original Article
75	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Visualization of the pelvic nerves using magnetic resonance imaging for rectal cancer surgery	Surg Endosc. 2023 Jun;37(6):4315-4320.	Original Article
76	Takuya Tokunaga, Maki Sugimoto, Yu Saito 他	消化器・移植外科	Transanal lateral lymph node dissection with intraoperative hologram support in low rectal cancer	Surg Endosc. 2023 Jul;37(7):5414-5420.	Original Article
77	Chie Takasu, Shuhai Chen, Luping Gao 他	消化器・移植外科	Role of Nrf2 signaling in development of hepatocyte-like cells	J Med Invest. 2023 August Vol.70 No.3,4 343-349.	Original Article
78	Masaaki Nishi, Yuma Wada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Prognostic impact of frailty after gastrectomy in elderly gastric cancer patients	J Med Invest. 2023 Aug;70(3.4):423-429.	Original Article

79	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Clinical impact of myosteatosis measured by magnetic resonance imaging on long-term outcomes of hepatocellular carcinoma after radical hepatectomy	BMC Surg. 2023 Sep 15;23(1):281	Original Article
80	Kunitsugu Kubota, Toru Kono, Mitsuo Shimada 他	消化器・移植外科	Intestinal hypomotility due to longitudinal enterotomy can be alleviated by transverse closure.	J Med Invest. 2023;70(1.2):180-188.	Original Article
81	Shuhai Chen, Saito Y, Waki Y 他	消化器・移植外科	Generation of Highly Functional Hepatocyte-like Organoids from Human Adipose-Derived Mesenchymal Stem Cells Cultured with Endothelial Cells	Cells. 2024 Mar 20;13(6):547.	Original Article
82	Chie Takasu, Yuji Morine, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Role of stromal PD-L1 expression in colorectal liver metastasis	BMC Cancer. 2024 Jan 17;24(1):97.	Original Article
83	Chie Takasu, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Preoperative evaluation to determine the difficulty of No. 6 lymphadenectomy in laparoscopic gastrectomy	BMC Surg. 2024 Feb 22;24(1):69.	Original Article
84	Yuji Morine, Yu Saito, Shinichiro Yamada 他	消化器・移植外科	Pancreatoduodenectomy combined with intestinal de-rotation as a complete artery-first approach for inexperienced surgeons	J Med Invest. 2024;71(1.2):75-81	Original Article
85	Yosuke Iwakawa, Masaaki Nishi, Yuma Wada 他	消化器・移植外科	Feasibility of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastric gastrointestinal stromal tumor with tumor diameter of >5 cm	J Med Invest. 2024;71(1.2):148-153.	Original Article
86	Hideya Kashihara, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	The Impact of the Pre-operative Neutrophil-lymphocyte Ratio as the Predictive Marker of Post-operative Weight Loss and Improving Diabetes in Sleeve Gastrectomy	J Med Invest. 2023; Feb 1.2):140-144. (公開日 2023.5.11)	Original Article
87	Shinichiro Yamada, Yuji Morine, Satoru Imura 他	消化器・移植外科	Effect of daikenchuto (TU-100) on carcinogenesis in non-alcoholic steatohepatitis	J Med Invest. 2023; May 70(1.2):66-73.	Original Article

88	Hiroki Teraoku, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Impact of pancreatic resection in patients with liver cirrhosis	J Med Invest. 2023; May 70(1.2):189-194.	Original Article
89	Hiroki Teraoku, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Short- and long-term outcomes of pancreatectomy in patients with hemodialysis	J Med Invest. 2023; May 70(1.2):105-109.	Original Article
90	Baasansuren Selenge, Shinichiro Yamada, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Impact of L-type amino acid transporter 1 on intrahepatic cholangiocarcinoma	J Med Invest. 2023; May 70(1.2):160-165.	Original Article
91	Daisuke Nagasato, Takahiro Sogawa, Mao Tanabe 他	眼科	Estimation of Visual Function Using Deep Learning From Ultra-Widefield Fundus Images of Eyes With Retinitis Pigmentosa	JAMA Ophthalmol 2023 Apr 1;141(4):305-313	Original Article
92	Takafumi Misaki, Fumiko Murao, Kayo Shinomiya 他	眼科	A Case of Osteopetrosis with Orbital Inflammation Secondary to Maxillary Osteomyelitis	Case Rep Ophthalmol 2024 Jan 29;15(1):92-99	Case report
93	Seiichiro Kamimura, Naoki Kimoto, Keisuke Ishitani 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Long-term effect of posterior nasal neurectomy for perennial allergic rhinitis	J. Med. Invest. 2024; Feb 71(1.2): 62-65.	Original Article
94	Kazunori Matsuda, Junya Fukuda, Go Sato 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The effects of continuous administration of diazepam on the recovery of lesion-induced nystagmus in unilaterally labyrinthectomised rats.	Acta Oto-Laryngologica 2023 Aug;143:675-680	Original Article
95	Miyu Kubo, Sonoko Yasui- Yamada, Haruka Hayashi 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Development and validation of equations for predicting appendicular skeletal muscle mass in male patients with head and neck cancer and normal hydration status	Nutrition 2023 Dec; 116: 112184	Original Article
96	Kiyoshi Yagi, Kazuya Kishima, Fumitake Tezuka 他	整形外科	Advantages of Revision Transforaminal Full-Endoscopic Spine Surgery in Patients who have Previously Undergone Posterior Spine Surgery	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2023 Nov;84(6) : 528-535	Original Article

97	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Keizo Wada 他	整形外科	Increased hip flexion angle and protrusion of the anterior acetabular component can predict symptomatic iliopsoas impingement after total hip arthroplasty: a retrospective study.	Hip Int. 2023 Nov;33(6):985-991	Original Article
98	Masatoshi Morimoto, Shunsuke Tamaki, Takayuki Ogawa 他	整形外科	Advantages of Full-endoscopic Trans-Kambin's Triangle Lumbar Interbody Fusion for Degenerative Spondylolisthesis: Illustrative Cases	NMC Case Rep J. 2023 Apr 10; 10:87-92	Case report
99	Akihiro Nitta, Keizo Wada, Daisuke Hamada 他	整形外科	Insertion of a spacer block translates the tibia anteriorly during evaluation of soft tissue balance in cruciate-retaining total knee arthroplasty.	Knee. 2023 Jun;42:125-129	Original Article
100	Makoto Takeuchi, Toshihiko Nishisho, Shunichi Toki 他	整形外科	Blue light induces apoptosis and autophagy by promoting ROS-mediated mitochondrial dysfunction in synovial sarcoma.	Cancer Med. 2023 Apr;12(8):9668-9683	Original Article
101	Yasuyuki Omichi, Daisuke Hamada, Ryo Okada 他	整形外科	Hematogenous prosthetic knee joint infection with Klebsiella pneumoniae caused by asymptomatic gallbladder abscess: a case report and literature review.	J Surg Case Rep. 2023 Jun 19;6	Case report
102	Yasuaki Tamaki, Daisuke Hamada, Keizo Wada 他	整形外科	Kinematic comparison between the knee after bicruciate stabilized total knee arthroplasty and the native knee: A cadaveric study.	Knee.2023 Jun;42:289-296	Original Article
103	Ichiro Tonogai, Daiki Nakajima, Ryo Miyagi 他	整形外科	Republication of "Gelatinous Transformation of Bone Marrow in the Calcaneus, Diagnosed by Open Bone Biopsy in a Patient With Anorexia Nervosa: A Case Report".	Foot Ankle Orthop. 2023 Aug 6; 8(3)	Case report
104	Ichiro Tonogai, Yuhei Yamasaki, Toshihiko Nishisho 他	整形外科	Republication of "Mucous Cyst at the Interphalangeal Joint of the First Toe Caused by Contact Pressure With the Second Toe due to Hallux Valgus: A Case Report".	Foot Ankle Orthop. 2023 Aug 6; 8(3)	Case report

105	Masatoshi Morimoto, Keizo Wada, Shunsuke Tamaki 他	整形外科	Clinical Outcome of Full Endoscopic Trans Kambin's Triangle Lumbar Interbody Fusion: A Systematic Review.	World Neurosurg. 2023 Oct; 178:317-329	Review
106	Yasuyuki Omichi, Daisuke Hamada, Keizo Wada 他	整形外科	Robotic-assisted total knee arthroplasty improved component alignment in the coronal plane compared with navigation-assisted total knee arthroplasty: a comparative study	J Robot Surg.2023 Dec;17(6):2831-2839	Original Article
107	Yasuaki Tamaki, Kazuta Yamashita, Daiki Nakajima 他	整形外科	Radiation exposure doses to the surgical team during hip surgery is significantly higher during lateral imaging than posteroanterior imaging: a cadaveric simulation study.	J Occup Med Toxicol. 2023 Nov 30;18(1):27	Original Article
108	Hiroaki Manabe, Masatoshi Morimoto, Kosuke Sugiura 他	整形外科	Morphological Evaluation of Lumbar Facet Joints in Professional Baseball Players.	Orthop J Sports Med. 2024 Jan 4;12(1)	Original Article
109	Yasuyuki Omichi, Tomohiro Goto, Keizo Wada 他	整形外科	Impact of the hip-spine relationship and patient-perceived leg length discrepancy after total hip arthroplasty: A retrospective study.	J Orthop Sci. 2024 May;29(3):854-860	Original Article
110	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Keizo Wada 他	整形外科	Robotic arm-assisted total hip arthroplasty via a minimally invasive anterolateral approach in the supine position improves the precision of cup placement in patients with developmental dysplasia of the hip.	J Orthop Sci.2024 Mar;29(2):559-565	Original Article
111	Yoshihiro Ishihama, Fumitake Tezuka, Hiroaki Manabe 他	整形外科	Facet Joint Morphology and Tropism in Adolescents: Association with Lumbar Disc Herniation and Spondylolysis.	Spine (Phila Pa 1976).2024 Jul 15;49(14):1029-1035	Original Article
112	Yasuyuki Omichi, Noriaki Mima, Keizo Wada 他	整形外科	Can TBS reference values be a valid indicator for clinical vertebral fracture? A cross-sectional study.	J Bone Miner Metab.2024 Jan;42(1):60-68	Original Article

113	Daisuke Yamashita, Kazuta Yamashita, Kosuke Sugiura 他	整形外科	Robotic-assisted minimally invasive repair surgery for progressive spondylolysis in a young athlete: a technical note.	J Surg Case Rep. 2024 Feb 21; 2024(2)	Others
114	Masatoshi Morimoto, Sudharshan Tripathi, Manoj Kodigudla 他	整形外科	Biomechanical Effects of Thoracic Flexibility and Stiffness on Lumbar Spine Loading: A Finite Element Analysis Study.	World Neurosurg. 2024 Apr; 184:e282-e290	Original Article
115	Shutaro Fujimoto, Takashi Inokuchi, Shunsuke Tamaki 他	整形外科	Return-to-play outcomes after full-endoscopic spine surgery under local anesthesia in professional baseball players: Comparison by timing of surgery.	J Orthop Sci. 2024 Jan 31 :S0949-2658(24)00007-1 Epub ahead of print.	Original Article
116	Shutaro Fujimoto, Fumitake Tezuka, Takahiro Ogawa 他	整形外科	Mismatch between Augmented Reality Navigation Images and Actual Location of a Cauda Equina Tumor : A Case Report.	J Med Invest.2024 Feb;71(1,2):174-176	Case report
117	Maki HOSOKI, Yoshifumi OKAMOTO, Toyoko TAJIMA 他	かみあわせ補綴科	Risk of an Immediate-type Allergy to Minocycline Hydrochloride Ointment	ODEP. 2023.12; 3(1): 152-157	Case report
118	Kazutoshi Murao, Yoshiaki Kubo	皮膚科	Podoplanin-positive cells located in the basal layer of Bowen disease include tumor cells with cancer stem cell properties	J Dermatol. 2023 Dec; 50(12): 1560-1567	Original Article
119	Kazutoshi Murao, Yuko Hori, Riko Endo 他	皮膚科	A case of vitiligo that followed the path of a varicose vein in the lower leg	J Med Invest. 2024.2; 71(1,2): 177-178	Case report
120	Kazutoshi Murao, Yoshiaki Kubo	皮膚科	Multiple Bowen Disease Lesions With the "Eyeliner Sign" in a Psoriasis Patient After Long-Term Narrow-Band Ultraviolet B Light Therapy	Am J Dermatopathol. 2024.3; 46(3): 193-194	Letter

121	Izumi Yamaguchi, Yasuhisa Kanematsu, Kenji Shimada 他	脳神経外科	Evaluation of Serial Intra-Arterial Indocyanine Green Videoangiography in the Surgical Treatment of Cranial and Craniocervical Junction Arteriovenous Fistulae: A Case Series	Operative Neurosurgery.2023Jun;25(3);292-300	Case report
122	Shu Sogabe, Tatsuya Haboshi, Izumi Yamaguchi 他	脳神経外科	Experience of using coronary perfusion balloon catheter for acute middle cerebral artery occlusion	Surgical Neurology International .2023Oct;14:365	Case report
123	Izumi Yamaguchi, Yasuhisa Kanematsu, Kenji Shimada 他	脳神経外科	Coexistence of anterior choroidal artery and posterior cerebral artery retia mirabilia presenting with subarachnoid hemorrhage: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons.2024Jan;7(1):CASE23580	Case report
124	Natsumi Teshima, Kazuhiro Matsuzaki, Noriya Enomoto 他	脳神経外科	Case of Cerebrospinal Fluid Leakage Nine Years after Pituitary Gamma Knife Surgery for Poststroke Thalamic Pain Syndrome.	Neurologia medico-chirurgica Case Report Journal.2023Jul;10:209-213	Case report
125	Hiroshi Kagusa, Izumi Yamaguchi, Kenji Shono 他	脳神経外科	Differences in amyloid-beta and tau/p-tau deposition in blood-injected mouse brains using micro-syringe to mimic traumatic brain microhemorrhages	J Chem Neuroanat.2023 Jul;130:102258.	Original Article
126	Yoshiteru Tada, Toshitaka Fujihara, Izumi Yamaguchi 他	脳神経外科	Nonconvulsive status epilepticus in patients with acute subarachnoid hemorrhage is associated with negative arterial spin labeling on peri-ictal magnetic resonance images	Heliyon. 2024 Jan 14;10(2):e24754	Original Article
127	Joji Fujikawa, Ryoma Morigaki, Nobuaki Yamamoto 他	脳神経外科	Diagnosis and Treatment of Tremor in Parkinson's Disease Using Mechanical Devices	Life (Basel). 2023 Jan; 13(1): 78	Original Article
128	Joji Fujikawa, Ryoma Morigaki, Kazuhisa Miyake 他	脳神経外科	Cranial geometry in patients with dystonia and Parkinson's disease	Sci Rep. 2023 Jul; 13(1):11003	Original Article

129	Michiko Kinoshita, Mina Takahashi, Katsuya Tanaka 他	麻醉科	Authorship by gender in anesthesiology journals: a retrospective cross-sectional study for Japan	Journal of Anesthesia. 2023 Jun;37(3):364-370.	Original Article
130	Michiko Kinoshita, Makoto Kinoshita, Rikako Takahashi 他	麻醉科	The Safety and Strategies for Reinitiating Electroconvulsive Therapy After ECT-Induced Takotsubo Cardiomyopathy A Case Report and Systematic Review	Journal of ECT. 2023 Sep 1;39(3):185-192.	Case report
131	Yuta Uemura, Michiko Kinoshita, Yoko Sakai 他	麻醉科	Hemodynamic impact of ephedrine on hypotension during general anesthesia: a prospective cohort study on middle-aged and older patients	BMC Anesthesiology. 2023 Aug 22;23(1):283.	Original Article
132	Michiko Kinoshita, Yoko Sakai, Katsuya Tanaka	麻醉科	Relative publication output and international collaboration in anaesthesiology and pain medicine: a bibliometric analysis from 1996 to 2021	British Journal of Anaesthesia. 2023 Aug;131(2):e53-e55.	Letter
133	Sarara Mutoh, Michiko Kinoshita, Yuki Maeda 他	麻醉科	Ketamine as an Alternative Anesthetic for Augmenting Seizure Durations During Electroconvulsive Therapy: A Retrospective Observational Study	The Journal of ECT. 2024 Jun 1;40(2):134-139. (Epub 2023 Dec 7.)	Original Article
134	Yuki Maeda, Nami Kakuta, Asuka Kasai 他	麻醉科	Successful intraoperative management of laparoscopic hysterectomy in a patient with Eisenmenger syndrome: a case report	JA Clin Rep. 2024 Mar 4;10(1):17.	Original Article
135	Michiko Kinoshita, Mizuki Komasa, Katsuya Tanaka	麻醉科	ChatGPT's performance on JSA-certified anesthesiologist exam	Journal of Anesthesia. 2024 Apr;38(2):282-283. Epub 2023 Oct 30.	Letter
136	Tomoya Takeda, Masahito Nakataki, Hidehiro Umehara 他	精神科神経科	Associations between negative and positive automatic thoughts and clinical variables in patients with schizophrenia.	Schizophr Res Cogn, 2023 Dec;35:100298	Original Article
137	Tomoki Hattori, Keisuke Fujioka, Takashi Nagai 他	小児科	Intrarenal renin-angiotensin system activation and macrophage infiltrations in pediatric chronic glomerulonephritis	Pediatr Nephrol. 2023 Nov;38:3711-3719.	Original Article

138	Kenichi Suga, Miki Shono, Tomohiro Takeda 他	小児科	Prophylactic effects of cyclooxygenase inhibitor on intraventricular hemorrhage: Effect modification by the risk of intraventricular hemorrhage.	Pediatr Neonatol. 2024 Jul;65(4):402-403. doi: 10.1016/j.pedneo.2023.11.003. Epub 2024 Jan 26.	Letter
139	Takei M, Suga K, Takeuchi S 他	小児科	Osteoarticular infections at a pediatric emergency core hospital in Japan.	J Med Invest. 2023;70(1.2):236-240. doi: 10.2152/jmi.70.236.	Original Article
140	Kenichi Suga, Yoshifumi Wakata, Manami Suzuki 他	小児科	Neonatal hyperkalemia associated with maternal ritodrine: A retrospective study.	Pediatr Int. 2023 Jan-Dec;65(1):e15604. doi: 10.1111/ped.15604.	Original Article
141	Masashi Suzue, Kenichi Suga, Takeshi Teketani 他	小児科	Chylous ascites complicating perinatal severe hypophosphatasia in an infant on high-setting ventilation and enzyme replacement therapy.	Pediatr Int. 2023 Jan-Dec;65(1):e15585. doi: 10.1111/ped.15585.	Original Article
142	Hiroaki Inui, Takako Kawakita, Misaki Murayama 他	産科婦人科	Effects of STAT Inhibitors in Mouse Models of Endometriosis.	Reprod Sci. 2023 Aug;30(8):2449-2456.	Original Article
143	Shota Yamamoto, Ryosuke Arakaki, Hiroki Noguchi 他	産科婦人科	New discoveries on the interaction between testosterone and oxytocin in male rats — Testosterone-mediated effects of oxytocin in the prevention of obesity.	Physiol Behav. 2023 Jul 1:266:114199.	Original Article
144	Takako Kawakita, Toshiyuki Yasui, Kanao Yoshida 他	産科婦人科	Associations of LH and FSH with reproductive hormones depending on each stage of the menopausal transition.	BMC Womens Health. 2023 May 25;23(1):286.	Original Article
145	Junki Imaizumi, Kanao Yoshida, Hiroki Noguchi 他	産科婦人科	A Safe Laparoscopic Approach for Ovarian Tumors during Pregnancy.	Gynecol Minim Invasive Ther. 2024 Feb 23;13(1):19-24.	Original Article
146	Junki Imaizumi, Shuhei Kamada, Miyu Taniguchi 他	産科婦人科	Developmental Changes in Hypothalamic and Serum Oxytocin Levels in Prenatally Normally Nourished and Undernourished Rats.	Nutrients. 2023 Jun 16;15(12):2768.	Original Article

147	Naoto Yonetani, Takashi Kaji, Aya Shirakawa 他	産科婦人科	Sonographic confirmation of placental detachment during placental delivery for uterine inversion prevention.	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Nov;49(11):2644-2648.	Original Article
148	Takeshi Iwasa, Hiroki Noguchi, Risa Tanano 他	産科婦人科	Age-Dependent Changes in the Effects of Androgens on Female Metabolic and Body Weight Regulation Systems in Humans and Laboratory Animals.	Int J Mol Sci. 2023 Nov 21;24(23):16567.	Review
149	Takeshi Iwasa, Akira Kuwahara, Toshiyuki Takeshita 他	産科婦人科	Preimplantation genetic testing for aneuploidy and chromosomal structural rearrangement: A summary of a nationwide study by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology.	Reprod Med Biol. 2023 May 31;22(1):e12518.	Case report
150	Maimi Uchishiba, Shota Yamamoto, Asuka Takeda 他	産科婦人科	Progesterone treatment reduces food intake and body weight in ovariectomized female rats	Steroids. 2024 Mar;203:109367	Original Article
151	Tomohiro Kagawa, Ayuka Mineda, Tomotaka Nakagawa 他	産科婦人科	New treatment strategies for uterine sarcoma using secreted frizzled-related proteins	Exp Ther Med. 2024 Mar 26;27(5):231	Original Article
152	Kanako Yoshida, Takeshi Kato, Riyo Kinochi 他	産科婦人科	Evaluation of Deeply Infiltrating Endometriosis by Preoperative Magnetic Resonance Imaging in Patients with Adenomyosis	Gynecol Minim Invasive Ther. 2023 Dec 28;13(2):105-110.	Original Article
153	Ayako Suto, Yuya Yano, Yuri Yamamoto 他	産科婦人科	Effects of activation with a Ca ionophore and roscovitine on the development of human oocytes that failed to fertilize after ICSI	J Med Invest. 2023 Aug;70(3.4):321-324	Original Article
154	Ryosuke Arakaki, Kanako Yoshida, Junki Imaizumi 他	産科婦人科	Obstructed hemivagina and ipsilateral renal agenesis (OHVIRA) syndrome: A case report	Int J Surg Case Rep.2023 Jun;107:108368	Case report
155	Noritake Matsuda , Hideki Otsuka , Tamaki Otani 他	医療技術部	New quantitative indices of cardiac amyloidosis with 99mTc-pyrophosphate scintigraphy	Japanese Journal of Radiology 2023.4 vol.4,No.4,p428-436	Original Article

156	Leah Anne Christine L Bollos , Yueren Zhao , Gil P Soriano 他	放射線診断科	Technologies, Physician's Caring Competency, and Patient Centered Care:A Systematic Review	The Journal of Medical Investigation 2023.7 vol.70,No.3.4,p307-316	Original Article
157	Mayumi Takeuchi , Kenji Matsuzaki , Yoshimi Bando 他	放射線診断科	Dynamic contrast-enhanced MR imaging of uterine endometrial carcinoma with/without squamous differentiation	Abdominal Radiology 2023.8 Vol.48,No.8,p2494-2502	Original Article
158	Tamaki Otani,Hitoshi Ikushima,Yoshimi Bando 他	放射線治療科	Early Prediction of Radiotherapeutic Efficacy in a Mouse Model of Non-Small Cell Lung Carcinoma Using 18F-FLT and 18F-FDG PET/CT	The Journal of Medical Investigation 2023.8 Vol.70 No.3,4,p361-368	Original Article
159	Daisuke Sato, Motoharu Sasaki, Yuji Nakaguchi 他	放射線治療科	Differences between professionals in treatment planning for patients with stage III lung cancer using treatment-planning QA software	Reports of Practical Oncology and Radiotherapy 2023 Nov 16;28(5):671-680	Original Article
160	Koji Fukushima, Takeshi Yoshida, Hiroki Yamazaki 他	脳神経内科	Anti-NXP2 Antibody-positive Juvenile Dermatomyositis with Characteristic Fascial Thickening on Muscle Ultrasound and Improvement with Immunotherapy	Internal Medicine 2023. Nov.vol.63,No.12,p1813-1817	Case report
161	Saya Matsuzaki, Eiji Hase, Hiroki Takanari 他	放射線診断科	Quantification of collagen fiber properties in alcoholic liver fibrosis using polarization-resolved second harmonic generation microscopy	Scientific Reports 2023.12 vol.13,No.,22100	Case report
162	Yuya Ueki , Hideki Otsuka , Tamaki Otani 他	放射線診断科	Combined visual and quantitative assessment of somatostatin receptor scintigraphy for staging and restaging of neuroendocrine tumors	Japanese Journal of Radiology 2024.2 vol.42,No.5,p519-535	Original Article
163	Hitoshi Ikushima, Noriko Ii, Shin-Ei Noda 他	放射線治療科	Patterns of care for brachytherapy in Japan	Journal of Radiation Research 2024 Mar 22;65(2):168-176.	Others
164	Yuki Nakano, Yoshitoyo Ueno, Emi Ishitani 他	救急集中治療科	Repetitive postoperative extubation failure due to dynamic inspiratory airway collapse concomitant with subglottic stenosis in a patient who previously underwent tracheostomy.	J Med Invest. 2023;70(1,2):301-305.	Case report

165	Manabu Ishihara, Yasuhisa Kanematsu, Nobuaki Yamamoto 他	脳神経外科	Prognostic factors for acute large vessel occlusion with NIHSS 5 or lower.	J Med Invest. 2023;70(1.2):22-27.	Original Article
166	K Watanabe, A Tichy, K Kamoi 他	矯正歯科	Restoration of a Microdont Using the Resin Composite Injection Technique With a Fully Digital Workflow: A Flexible 3D-printed Index With a Stabilization Holder	Oper Dent. 2023 Sep 1;48(5):483-489.	Original Article
167	Keiichi Hosaka, Antonin Tichy, Monica Yamauti 他	むし歯科	Digitally Guided Direct Composite Injection Technique with a Bi-layer Clear Mini-Index for the Management of Extensive Occlusal Caries in a Pediatric Patient:A Case Report	The Journal of Adhesive Dentistry, Vol.25, No.1, 211-218, 2023 Aug	Case report
168	Masahiro Shimoyama, Yoshitaka Hosokawa, Ikuko Hosokawa 他	むし歯科	Effects of erucin on inflammatory mediators and antioxidant enzymes' expression in TNF-alpha-stimulated human oral epithelial cells	Immunopharmacology and Immunotoxicology, Vol.46, No.1, 49-54, 2024 Feb	Original Article
169	Yoshitaka Hosokawa, Ikuko Hosokawa, Masahiro Shimoyama 他	むし歯科	The effects of berteroin on inflammatory mediators and antioxidant enzymes expression in human periodontal ligament cells	Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology, 2024 Apr;397(4):2233-2240. Epub 2023 Oct 7.	Original Article
170	Risa Okamoto, Yoshitaka Hosokawa, Ikuko Hosokawa 他	むし歯科	Cardamonin decreases inflammatory mediator expression in IL-1beta-stimulated human periodontal ligament cells	Molecular Biology Reports, Vol.51, No.1, 2024	Original Article
171	Keiichi Hosaka	むし歯科	Advancing Minimal Intervention Dentistry: Emphasizing Digital Enhancement of Direct Composite Restorations with Refined Bonding Strategies and Innovative Non-destructive Terahertz Internal Observation	J Oral Health Biosci, Vol.36, No.1, 1-7, Sep. 2023	Review
172	Hideki Suito, Keiko Fujimoto, Takaharu Goto 他	そしやく科	Effective use of an extraoral vacuum in preventing the dispersal of particulate matter from metal dental materials.	Journal of Occupational Health.2023Jan-Dec;65:e12412 (オンライン)	Original Article

173	Adityakrisna Yoshi Putra Wigianto, Yuichi Ishida, Yuki Iwawaki 他	そしやく科	2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine polymer treatment prevents Candida albicans biofilm formation on acrylic resin.	Journal of Prosthodontic Research.2023Jul;67:384-391	Original Article
174	Takaharu Goto, Takahiro Kishimoto, Shinji Fujiwara 他	そしやく科	Social frailty as a predictor of all-cause mortality and functional disability: a systematic review and meta-analysis	Scientific Reports.2024 Feb;14:3410	Review
175	Adityakrisna Yoshi Putra Wigianto,Megumi Watanabe,Yuki Iwawaki 他	そしやく科	Antimicrobial Efficacy of a Portable UV-C-Based Coating Activation Device against Candida albicans Biofilm and SARS-CoV-2 as an Additional Feature: An In Vitro Study	Hygiene.2024 Feb;4:93-102	Original Article
176	Susumu Abe, Yoshizo Matsuka, Ayu Murakami 他	総合歯科診療部	Job shadowing for early undergraduate dental students: Validation of educational effectiveness using structural equation modeling	European Journal of Dental Education 2023 Nov;27(4):898- 907.	Original Article
177	Swarnalakshmi Raman, Yumiko Yamamoto, Yoshitaka Suzuki 他	かみあわせ補綴科	Mechanism and clinical use of botulinum neurotoxin in head and facial region.	Journal of Prosthodontic Research.2023 Oct 13;67(4):493-505.	Review
178	Yoshitaka SUZUKI, Kazuo OKURA, Toyoko TAJIMA 他	かみあわせ補綴科	Essence of diagnosis and management of sleep bruxism	Journal of Oral Health and Biosciences 36: 22-29, 2024.3	Review
179	Ryoko Shioyasono,Atsu shi Shioyasono,Aya mi Ito 他	矯正歯科	A patient with unilateral posterior crossbite treated with modified unilateral surgically-assisted rapid maxillary expansion.	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics - Clinical Companion 2023 April;3(2):149- 62.	Case report
180	Kazuaki Miyagawa, Hirofumi Tenshin, Patrick L Mulcrone 他	矯正歯科	Osteoclast-derived IGF1 induces RANKL production in osteocytes and contributes to pagetic lesion formation.	JCI Insight 2023 July; 8(14):e159838.	Original Article
181	Eiji Tanaka	矯正歯科	Etiology and Diagnosis for Idiopathic Condylar Resorption in Growing Adolescents	Journal of Clinical Medicine 2023 Oct; 12:6607.	Letter
182	Eiji Tanaka, Hiroshi Yamada, Masaaki Higashino 他	矯正歯科	Influence of Orthodontic Treatment on Changes in the Maxillary Sinus Dimensions	Cureus 2024 Feb; 16(2): e53363.	Original Article

183	Tetsuya Matsuura, Naoto Suzue, Toshiyuki Iwame 他	リハビリテーション部	Prevalence of osteochondritis dissecans of the capitellum in elementary school baseball players based on ultrasonographic screening: a 15-year overview in Tokushima, Japan	JSES Int. 2024 Feb 14;8(3):661-666	Original Article
184	Hiroyasu Mori, Satoshi Taniguchi, Yu Tamaki 他	アンチエイジング医療センター	Telenutrition Education Is Effective for Glycemic Management in People with Type 2 Diabetes Mellitus: A Non-Inferiority Randomized Controlled Trial in Japan	Nutrients. 2024 Jan;16:268	Original Article
185	Ayuka Kawakami, Mika Bando, Tomoe Takashi 他	アンチエイジング医療センター	Umami taste sensitivity is associated with food intake and oral environment in subjects with diabetes	J Med Invest. 2023;70:241-250	Original Article
186	Akiko Hata, Makoto Funaki	糖尿病対策センター	Long-term impact of COVID-19 pandemic on secular changes in metabolic parameters in Japanese workers : Tokushima Cohort Study	J Med Invest. 2024;71(1.2):47-53.	Original Article
187	Ai SAKUMA, Makoto FUKUI, Yukio ASO 他	歯科衛生室	Association between Motivation Scale Score and Oral Condition on Receiving Basic Periodontal Therapy	J Dent Hlth, 74 (1), 40-51, 2024	Original Article
188	Sae Morita, Yukina Hirata, Susumu Nishio 他	超音波センター	Correlation between energy loss index and B-type natriuretic peptide: a vector flow mapping study.	J Echocardiogr. 2024 Mar;22(1):25-33. doi: 10.1007/s12574-023-00623-x. Epub 2023 Sep 14.	Original Article
189	Kenta Yagi, Akinori Maruo, Shunsuke Ishida 他	総合臨床研究センター	Effects of vonoprazan and proton pump inhibitors on the efficacy of bevacizumab: a multicentre retrospective study	Clin Exp Med. 2023 Oct;23(6):2799-2804.	Original Article
190	Rie Ando-Matsuoka, Kenta Yagi, Mayu Takaoka 他	薬剤部	Differential effects of proton pump inhibitors and vonoprazan on vascular endothelial growth factor expression in cancer cells	Drug Dev Res. 2023 Feb;84(1):75-83.	Original Article
191	Takahiro Niimura, Yoshito Zamami, Koji Miyata 他	薬剤部	Characterization of Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Myasthenia Gravis Using the US Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System	J Clin Pharmacol. 2023 Apr;63(4):473-479	Original Article

192	Takahiro Niimura, Koji Miyata, Hirofumi Hamano 他	薬剤部	Cardiovascular Toxicities Associated with Anaplastic Lymphoma Kinase Inhibitors: A Disproportionality Analysis of the WHO Pharmacovigilance Database (VigiBase)	Drug Saf. 2023 Jun;46(6):545-552.	Original Article
193	Takahiro Niimura, Mitsuhiro Goda, Koji Miyata 他	薬剤部	Evaluation of cardiovascular toxicity of the atezolizumab and bevacizumab combination	Front. Drug. Saf. Regul. 3:1213771.August 2023	Original Article
194	Takashi Bando, Masayuki Chuma, Hirofumi Hamano 他	薬剤部	Concomitant Use of Multiple Nephrotoxins including Renal Hypoperfusion Medications Causes Vancomycin-Associated Nephrotoxicity: Combined Retrospective Analyses of Two Real-World Databases	Acta Med Okayama. 2023 Dec;77(6):595-605	Original Article
195	Naoto Okada, Takahiro Niimura, Atsuyuki Saisyo 他	薬剤部	Pharmacovigilance Study on Eosinophilic Pneumonia Induced by Anti-MRSA Agents: Analysis Based on the FDA Adverse Event Reporting System	Open Forum Infect Dis. 2023 Aug 2;10(8):ofad414.	Original Article
196	Toshihiko Yoshioka, Mitsuhiro Goda, Masaya Kanda 他	薬剤部	Valproic acid treatment attenuates cisplatin-induced kidney injury by suppressing proximal tubular cell damage	Clin Transl Sci. 2023 Nov;16(11):2369-2381	Original Article
197	Naoto Okada, Hirofumi Hamano, Kenta Yagi 他	薬剤部	Effect of pre-treatment with EGFR-TKIs on immune checkpoint inhibitor-associated interstitial lung disease in lung cancer patients: Analysis using a Japanese claims database	Int J Clin Pharmacol Ther. 2024 Feb;62(2):69-76.	Original Article
198	Kaito Tsujinaka, Yuki Izawa-Ishizawa, Koji Miyata 他	薬剤部	Angiogenesis inhibitor-specific hypertension increases the risk of developing aortic dissection	Biomed Pharmacother. 2023 Nov;167:115504.	Original Article
199	Satoshi Doi, Nobuto Nakanishi, Yoshimi Kawahara 他	看護部	Effects of Vibration Therapy on the Physical Function of Critically Ill Adults Trial: A Randomized Controlled Trial	Critical Care Medicine .2024 Jun 1;52(6):910-919. (Epub 2024 Jan 26.)	Original Article
200	Mami Sato-Fukuba, Rieko Arakaki, Aya Ushio 他	口腔内科	CD4+ T-cell-dependent differentiation of CD23+ follicular B cells contributes to the pulmonary pathology in a primary Sjögren's syndrome mouse model	Front Immunol. 2023 Jul 5;14:1217492. doi: 10.3389	Original Article

201	Takumi Kakimoto, Masato Hosokawa, Mayuko Ichimura-Shimizu 他	病理部	Accumulation of α -synuclein in hepatocytes in nonalcoholic steatohepatitis and its usefulness in pathological diagnosis	Pathol Res Pract. 2023 Jul;247:154525.	Original Article
-----	---	-----	---	--	------------------

計201件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	該当なし				
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織、申請手続き、審議、有害事象、実施状況報告、終了報告など会議等委員会運営に必要な事項）、2. 生命科学・医学系研究実施に係る標準業務について、3. 生命科学・医学系研究に関連する重篤な有害事象対応について、4. 研究者主導臨床研究でのモニタリング又は監査の受入れについて、5. 他の研究機関への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要、手続き及び方法、勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 外部の e ラーニング（CREDITS）で年 1 回の受講を必須としている。別途、臨床研究の倫理に関する話題も含めたセミナーについては、今後も年 1～2 回、またはそれ以上実施することとし、令和 5 年度は 1 回実施している。 別途、各科のクリニカルリサーチマネージャーを対象とした会議を不定期に実施しており、令和 5 年度は倫理に関する情報共有を 1 回実施している。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>(医師)</p> <p>希望する診療領域に応じて卒後 3～6 年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設（国内外）での研修も可能である。</p> <p>(歯科医師)</p> <p>希望する診療領域に応じて専門医、認定医を取得し、多様化する全身疾患に対応し得るよう、より高度で専門的な歯科治療に関する知識・技術等を身につけ、医療人として高い倫理観をもち、有能かつ誠実で信頼される歯科医師の養成を目指す。</p>
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	158人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
松岡賢市	内科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	脳神経内科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	腎臓内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
松岡賢市	血液内科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内	教授	36年	診療科長・プログラム責任者

	科			者
秦 広樹	外科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	外科	教授	40年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	外科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	消化器・移植外科	教授	40年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
後藤正和	食道・乳腺甲状腺外科	講師	20年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	35年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	心臓血管外科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
古川順也	泌尿器科	教授	24年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
三田村佳典	眼科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
北村嘉章	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
岩佐 武	産科婦人科	教授	22年	診療科長・プログラム責任者
沼田周助	精神科神経科	教授	23年	診療科長・プログラム責任者
漆原真樹	小児科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
田中克哉	麻酔科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科・美容外科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急集中治療科	教授	27年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	34年	診療部長・プログラム責任者
八木秀介	総合診療部	教授	26年	診療部長・プログラム責任者
松浦哲也	リハビリテーション科	教授	31年	診療部長・プログラム責任者

保坂啓一	歯科	教授	32年	診療科長
田中栄二	矯正歯科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
岩崎智憲	小児歯科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
栗尾奈愛	歯科口腔外科	講師	21年	診療科長・プログラム責任者
湯本浩通	総合歯科診療部	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
保坂啓一	むし歯科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
湯本浩通	歯周病科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
青田桂子	口腔内科	病院教授	27年	診療科長・プログラム責任者
永尾 寛	そしゃく科	病院教授	36年	診療科長・プログラム責任者
松香芳三	かみあわせ補綴科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
前田直樹	歯科放射線科	講師	35年	診療科長・プログラム責任者
川人伸次	歯科麻酔科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
友竹偉則	口腔インプラントセンター	病院教授	31年	診療部長・プログラム責任者

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

1) 看護師特定行為研修（指定研修機関）

- ・研修の主な内容：特定行為研修を行う場合に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を有する特定看護師を育成するために、共通して学ぶ「共通科目」と特定行為区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれて、講義、演習、実習を行う。
- ・研修期間：令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月
- ・研修の参加人数：

術中麻酔管理領域パッケージ（8 行為）1 名、

栄養及び水分に係る薬剤投与関連（2 行為）、血糖コントロールに係る薬剤投与関連（1 行為）、腹腔ドレーン管理関連（1 行為）、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連（1 行為）全 5 行為 1 名、計 2 名が全 13 行為の研修を修了。

2) 院内認定コース

- ・研修の主な内容：ミドルレベル看護師を対象に、専門的領域のスキルアップを目指して年間を通じたコース研修を開講（全 5 コース：①リスク管理、②糖尿病、③集中ケア、④CR C、⑤手術看護）
- ・研修の期間・実施回数：令和 5 年 6 月～令和 6 年 2 月。各コース 18～34 回（全 133 回）の研修を開催
- ・研修の参加人数：延べ 356 名が参加。13 名がコース研修修了し、病院長より「院内認定看護師」の認定を受ける。

3) 院内認定フォローアップ研修

- ・研修の期間・実施回数：院内認定コース修了者を対象にフォローアップ研修（全 15 コース、上記 5 コースに加え⑥がん化学療法看護、⑦緩和ケア、⑧乳がん看護、⑨がん放射線

療法看護、⑩感染管理、⑪褥瘡看護、⑫摂食嚥下障害看護、⑬脳卒中リハビリテーション看護、⑭認知症看護、⑮エキスパート助産師) を年1回以上開催。研修回数は全33回

・研修の参加人数：延べ176名

4) 医療専門職部門キャリア形成支援研修会

・研修の期間・実施回数：令和5年4月～令和6年3月 ・ 12回

・研修の参加人数：328人

② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

1) 退院支援看護師養成コース

・研修の主な内容：入院時から退院支援を円滑に実施できる看護師を養成するためのコース研修を開催

・研修の期間・実施回数：令和5年7月～令和6年1月 研修回数は18回

・研修の参加人数：延べ97名。3名がコース研修を修了し、病院長より「退院支援看護師」の認定を受ける。

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1) 看護師特定行為研修 (指定研修機関)

・研修期間：令和5年4月～令和6年3月

・研修の参加人数：徳島県内の急性期病院3施設 (徳島県鳴門病院、阿南医療センター、田岡病院) より全7名の看護師を受け入れ、6名が術中麻酔管理領域パッケージ、救急領域パッケージをはじめとする全21行為の研修を修了 (1名は令和6年度も継続受講中)。

2) 徳島大学病院心・血管エコー検査修得プログラム研修

・研修の主な内容：認定超音波検査士の取得に必要な基礎から臨床までの幅広い知識を学習

するため、あわせて医療現場ですぐに役立つエコー検査の技術習得のための研修を受け入れている。

- ・研修の期間・実施回数：令和5年4月1日～令和6年3月31日 ・1年間
- ・研修の参加人数：1人（臨床検査技師）

3) 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。

- ・研修の期間・実施回数（延べ日数） ・研修の参加人数

（医師）令和5年4月～令和5年9月 ・12日 ・1名

（看護師）令和5年10月～令和6年2月 ・3日 ・2名

（診療放射線技師）令和5年4月～令和6年3月 ・78日 ・4名

（臨床検査技師）令和5年4月～令和6年3月 ・300日 ・9名

（歯科衛生士）令和5年4月～令和6年3月 ・12日 ・3名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 香美 祥二	
管理担当者氏名	総務課長 兒玉 実和 経理調達課長 原井 由美 医事課長 立山 あけみ 薬剤部長 石澤 啓介 看護部長 上田 美香 医療技術部長 中尾 隆之 病院情報センター部長 若田 好史 手術部長 高木 康志 放射線部長 原田 雅史 ME管理センター長 大藤 純	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科 (部)
		処方せん	病院情報システム
		手術記録	病院情報システム
		看護記録	病院情報システム
		検査所見記録	病院情報システム
		エックス線写真	病院情報システム
		紹介状	病院情報システム
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	文書ファイルで保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 医事課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医事課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> ② 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	事務部長 協元 直彦
閲覧担当者氏名	総務課長 兒玉 実和
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要 閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>リスクマネジメント委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。 2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。 3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。 4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。 5 その他医療上の事故等に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>令和5年度</p> <p>第1回安全管理研修会「患者誤認 一何故生じるか？何が問題か？」</p> <p>第2回安全管理研修会「人工呼吸器の安全管理」</p> <p>第3回安全管理研修会「くすりのリスク～インシデント事例から考える～」</p> <p>第4回安全管理研修会「院内転倒の知識と対策」</p> <p>第5回安全管理研修会「子ども虐待対応における医療機関の役割」</p>	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

事故報告等の報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により報告される。報告されたインシデントは、リスクマネージャーからの報告や安全管理部リスクマネジメント部門員による現場確認及び当事者等の事情聴取により確認され、安全管理部リスクマネジメント部門会議（分析）において、インシデント報告書に基づき改善策を検討する。次に、リスクマネジメント部門会議（分析）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。さらに、これらの改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会でフィードバックする。

次のステップとして、実施された改善策のうち、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）で評価し、改善策を検討する。上記と同様に、リスクマネジメント部門会議（評価）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。次に、これらの実施された改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で再度フィードバックする。さらに、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返す。行う。（PDCA手法を取り入れている。）

分析方法については、インシデント報告された報告事例（一月約300件程度）を職種の違う担当者が分担して1件1件内容を確認し、インシデントへの意見等を出し合う。その中で、インシデントが警鐘的な事例や、インシデントが他部署にわたる事例など、また、全国的に頻発している事例などを選び、1～2事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 <p>※「医療に係る安全管理のための指針」及び「院内感染対策のための指針」として、「徳島大学病院における医療に係る安全管理のための指針」を定めており、本指針において「安全管理等」の「等」に院内感染予防を含むと定義している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染の予防及び対策に関すること。 2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。 3 院内感染発生時の措置に関すること。 4 職員の院内感染の教育に関すること。 5 感染制御部の運営に関すること。 6 その他院内感染に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>令和5年度</p> <p>第1回 ・ COVID-19における感染対策とサル痘について ・ COVID-19治療薬とAMR対策アクションプランに基づいた抗菌薬の適正使用について</p> <p>第2回 ・ 標準予防策 ・ 注意すべきウイルス感染症 ・ 薬剤耐性菌と抗菌薬適正使用</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

- 1 毎週1回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。
- 2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について届出制を実施し、適正使用について毎週検討している。
- 3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に1回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。
- 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面接をすべての事例で行い、改善策をフィードバックしている。
- 5 ICUでのBSIサーベイランス、食道手術のSSIサーベイランスを実施している。
- 6 教育体制として、①感染対策研修会、②研修医研修、③看護師研修（新人、2年目）、④感染管理院内認定コース、⑤育休復帰者研修、⑥看護補助者研修、⑦メディカルクラーク研修、⑧清掃担当者研修に分けて計画している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○当院における医薬品安全管理体制について <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品安全管理責任者の配置 ・ 医薬品安全管理業務手順書 ・ 医薬品安全使用のための職員研修 ・ 未承認等の医薬品に関わる体制 ○処方、医薬品管理の注意点について <ul style="list-style-type: none"> ・ 類似名称、外観類似医薬品の取り扱い注意 ・ 麻薬、覚醒剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品等の管理方法 ・ ハイリスク薬について ○医薬品安全性情報（緊急安全性情報、安全性速報）について ○副作用報告制度について ○インシデント事例、要因、対策について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 与薬や薬剤管理など医薬品に係る業務の実施状況を確認し、結果をフィードバックして改善に向けて取り組んでいる。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>【医薬品】トフェルセン（tofersen）注射剤 100mg/15mL</p> <p>【使用区分】国内未承認薬</p> <p>【対象疾患】筋萎縮性側索硬化症（SOD1遺伝子変異による遺伝性筋萎縮性側索硬化症）</p> <p>【医薬品の概要】</p> <p>本剤はバイオジェン社により開発されたアンチセンスオリゴヌクレオチドであり、SOD1mRNAに結合し、SOD1タンパク質の生成を抑制する。2023年4月に米国FDAより迅速承認がなされ、米国では既に治療に使用されている。</p> <p>【使用方法】トフェルセン100mgを髄腔内投与</p> <p>初回～3回目投与までは2週間に1回、4回目投与以降は4週間に1回</p> <p>【有害事象の把握方法】</p> <p>問診・神経学的診察、バイタルサインの測定に加え、臨床試験（VALOR試験）の項目に準じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血液検査（血算、血液生化学、凝固検査）、尿検査、髄液検査を各回薬剤投与前に 	

実施する。

- ・ ALS機能評価スケール改訂版（ALSFRS-R: The revised ALS Functional Rating Scale）を各回薬剤投与の受診時に記載し評価する。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含めた医薬品の管理体制を構築している。

院内で発生した副作用やインシデント内容を週1回の薬剤部カンファレンスで薬剤部職員に周知している。

医薬品を適応外使用する場合の院内規定を設けている。院内の適応外使用の状況を把握し、医薬品安全管理責任者から安全管理部・リスクマネジメント委員会への報告、必要性等の確認、情報共有及び診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を構築している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年50回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新しい医療機器の導入時の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 令和5年度における新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器7機種に対して、計22回（参加人数：171名）実施した。 <p>(2) 特定機能病院における医療機器研修（院内研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 令和5年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師、看護師）にて、医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の研修会（開催回数：2回、参加人数：51名）を実施し、正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れている。 ・ 各病棟（東病棟、西病棟、中央診療棟）、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期（要望依頼時）に実施している。令和5年度は12回開催し、112名に機器の概要と適切な使用方法について説明している。 ・ 令和5年度に実施した特定保守管理装置の研修は人工呼吸器（ネーザルハイフロー等含む）、除細動装置、補助循環装置（ECMO、IABP）血液浄化療法に関して計6回（参加人数：69名）実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。 ・ 医療機器安全研修会においては、人工呼吸器の安全管理に関して開催し、118名が参加している。 <p>(3) 特定機能病院における医療機器研修（院外研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度における医療機器の研修（対象：臨床工学技士）では、院外研修会（開催方法：WEB研修会、eラーニング）は計7回（参加72名）であった。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>主な医療機器（①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置、⑤閉鎖式保育器、⑥X線CT装置、⑦診療用高エネルギー放射線発生装置、⑧診療用放射線照射装置、⑨MRI装置等）の保守点検に関する計画の策定及び保守点検を実施している。</p> <p>具体的には、医療機器製造販売メーカーの指定期間（使用年数または使用時間）により、プリベンティブメンテナンスや機器のオーバー・ホールを各メーカーへ依頼し、実施している。</p>

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
使用事例なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ 医療機器の添付文書及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医療機器安全性情報サービスに登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報、情報の性質や内容により異なるが、使用者 (医療従事者) や内容が特定の部署に限定される場合には個別に必要部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内に周知している。
 - ・ 医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き (2021年7月30日改訂、電波環境協議会、総務省) を参考にして、令和3年12月より、各病棟等にて使用されている医用テレメータ (ベッドサイドモニター、送信機) のチャンネル管理及びゾーン管理ができる医療機器保守管理システムを新たに導入し、運用を開始している。
また、当センターのスタッフが院内の電波コーディネータとして医用電波管理に携わっている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副院長をもって充てている。</p> <p>また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (7名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集および整理し、医療スタッフへ情報提供する体制を整えている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者（薬剤部安全管理担当者）を定めるとともに、未承認等の医薬品に関する使用状況の把握、必要性等の確認、情報の共有および診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を整えている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (○有) 無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属： 薬剤部 、職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (○有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。</p> <p>インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 2 対象 3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> ・誰が説明し、誰が立ち会うのか 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ どこで行うのか ・ 記録と保管 ・ 説明と同意 	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<p>①・無</p>
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。 診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<p>①・無</p>
<p>・ 所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（８）名 うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（０）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。 (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。 (3) 患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。 (4) 医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。 (5) 医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。 (6) 医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。 (7) インシデント報告の管理に関すること。 (8) リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。 (9) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (10) 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。 (11) 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。 <p>・ 平時からのモニタリングの具体例：</p> <p>安全管理部看護師が質問内容を検討した上で、「安全確保状況報告書」として各所属から1人ずつ選出されたリスクマネージャーに回答を依頼し、集計結果をリスクマネージャー連絡会にてフィードバックしている。 また、リスクマネジメント部門（分析会議）にて検討した対策についての対応状況についても、併せて回答を依頼している。</p>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（11件）、及び許可件数（10件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ①高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関すること。
 - ②高難度新規医療技術等を用いた医療実施後の症例報告の検証に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（12件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ①未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。
 - ②未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年234件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になった

ものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年55件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

全死亡事例を管理者へ報告しており、予期せぬものであったか、蘇生処置などの家族への説明、AI/病理解剖の有無など、特記すべき事項について情報共有を行っている。また、重大と考えられる事例については症例検討を個別に行い、必要があれば管理者の判断のもと、医療事故調査・支援センターへ報告し、院内事故調査委員会を立ち上げる。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：滋賀医科大学医学部附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ

（有）（病院名：山梨大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

①医療安全

患者支援センターについて、対話推進者等の体制を整えることで業務改善が図られるのでご検討いただきたい。

②高難度

安全管理部メンバーがオブザーバーとして同席しているが、多職種での視点から評価を行う視点を考慮し、看護師を委員にすることをご検討いただきたい。

申請するか否かの判断は診療科だけに任されているため、何らかのチェック体制があると望ましい。

承認後の報告件数は症例によって変更しているが、遅延性の合併症等も考慮し、3か月や半年時点での報告の必要性について検討願いたい。また、実施症例が適切に実施されているかを確認する必要があるため、カルテ記載を定期的を確認する仕組みをご検討いただきたい。

【対応】

①患者支援センターの職員が、日本医療メディエーター協会が実施する研修を受講し、院内医療メディエーターとしての専門性や倫理性について学んでいる。

②令和6年度より、看護師を委員に加えている。また、申請が必要かどうか判断がつかない事項等については、事前に安全管理部へ問合せを行うよう周知している。

報告方法については、所定の様式・リスト形式及び参考資料等を用いて行うこととし、報告期日については、プロクターが外れるまでは施行時、プロクターが外れてからは1年毎にまとめて報告することとしている。また、有害事象発生時は都度報告することとしている。

カルテ記載を定期的を確認する仕組みは構築していないが、報告書の内容に疑義が生じた際は適宜カルテを確認することとしている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、必要と判断された場合は病院長へ報告するものとしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、e-learning を活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

毎年、安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者が必ず受講している。

また、令和5年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者がそれぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

・ISO9001

一般社団法人日本能率協会審査登録センター

登録日：2002年12月18日

登録有効期限：2026年12月17日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表すべき事項は該当なし

- ・ 評価を踏まえ講じた措置

業務手順の見直し及び周知

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 徳島大学病院長選考規則により、病院長は以下の要件を満たす者とされている。 (1) 医師法（昭和23年法律第201号）に基づき医師免許証を交付された医師である者 (2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 なお、具体的事項は、徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て選考基準を決定し、公表する。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 Web上にて公表 	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 徳島大学病院運営会議規則により、本院の管理運営に関する以下の事項を審議する。 (1) 本院の運営方針に関する事 (2) 中期目標・中期計画等に関する事 (3) 予算及び決算に関する事 (4) その他本院の管理運営に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は、診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 Web上にて公表 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
香美 祥二	○	医師	病院長
原田 雅史		医師	副病院長 (総務担当)
西良 浩一		医師	副病院長 (診療担当)
湯本 浩通		歯科医師	副病院長 (歯科担当)
高木 康志		医師	副病院長 (医療安全管理担当)
上田 美香		看護師	副病院長 (看護担当)
脇野 修		医師	病院長補佐 (教育・研修・地域連携担当)
大藤 純		医師	病院長補佐 (救急・災害担当)
川人 伸次		医師	病院長補佐 (医歯連携担当)
三田村 佳典		医師	病院長補佐 (ダイバーシティ・環境担当)
滝沢 宏光		医師	病院長補佐 (研修・キャリア支援担当)
高山 哲治		医師	病院長補佐 (経営企画担当)
中尾 隆之		技師	病院長補佐 (医療支援担当)
近藤 武		外部有識者	病院長補佐 (経営担当)

脇元 直彦		事務	病院長補佐 (事務担当)
松浦 哲也		医師	リハビリテーション部
上原 久典		医師	病理診断科
坂東 良美		医師	病理診断科
徳永 卓哉		医師	地域外科診療部
酒井 陽子		医師	麻酔科診療部
早淵 康信		医師	地域小児科診療部
酒井 紀典		医師	高度先進整形外科 診療部
佐田 政隆		医師	内科(循環器内科)
西岡 安彦		医師	内科(呼吸器・膠原病 内科)
遠藤 逸朗		医師	内科(内分泌・代謝内 科)
松岡 賢市		医師	内科(血液内科)
和泉 唯信		医師	内科(脳神経内科)
秦 広樹		医師	外科(心臓血管外科)
後藤 正和		医師	外科(食道・乳腺甲状 腺外科)
古川 順也		医師	外科(泌尿器科)
島田 光生		医師	外科(消化器・移植外 科)
石橋 広樹		医師	外科(小児外科・小児 内視鏡外科)
北村 嘉章		医師	感覚・皮膚・運動機能 科(耳鼻咽喉科・頭頸 部外科)
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能 科(皮膚科)
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能 科(形成外科)
田中 克哉		医師	脳・神経・精神科 (麻酔科)
沼田 周助		医師	脳・神経・精神科 (精神科神経科)
漆原 真樹		医師	小児・周産・女性科 (小児科)
岩佐 武		医師	小児・周産・女性科 (産科婦人科)
生島 仁史		医師	放射線治療科
保坂 啓一		歯科医師	歯科(むし歯科)
永尾 寛		歯科医師	歯科(そしやく科)
松香 芳三		歯科医師	歯科(かみあわせ補綴 科)
前田 直樹		歯科医師	歯科(歯科放射線科)
田中 栄二		歯科医師	矯正歯科(矯正歯科)

岩崎 智憲		歯科医師	小児歯科（小児歯科）
青田 桂子		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
栗尾 奈愛		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
池本 哲也		医師	安全管理部
東 桃代		医師	感染制御部
加地 剛		医師	周産母子センター
若田 好史		医師	病院情報センター
三木 浩和		医師	輸血・細胞治療部
石澤 啓介		薬剤師	薬剤部長
阪上 浩		医師	栄養部長
高橋 章		医師	予防環境栄養学
森 健治		医師	子どもの保健・看護学
片岡 宏介		歯科医師	口腔保健福祉学
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター
八木 秀介		医師	総合診療部
北村 直也		歯科医師	総合歯科診療部

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
Web上にて公表
- ・ 規程の主な内容
(徳島大学病院規則)
 - ・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。
 - ・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。
- ・ (徳島大学病院の院内組織に関する内規)
 - ・ 各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
 - ・ 診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
 - ・ 病院長は、前条の診療科長が次の各号のいずれかに該当する場合は、病院運営会議の議を経て、診療科長を解任することができる。
 - (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反があるとき。
 - (3) その他診療科長たるに適しないと認めるとき。
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長5名 (総務、診療、歯科、医療安全管理、看護)
 - ・ 副病院長は、病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。
 - ・ 病院長補佐9名 (教育・研究・地域連携、救急・災害、医歯連携、ダイバーシティ・環境、研修・キャリア支援、経営企画、医療支援、経営、事務)
 - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
管理者向けの研修に参加させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 次の事項を審議する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関すること。 2 安全管理状況及び改善状況に関すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市病院局・ 病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・(無)	1
柴谷 亮	柴谷法律事務所・ 弁護士		法律に関する識見を有するため	有・(無)	1
上田伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部・ 教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者 (学識経験を有する者)	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none">・体制の整備状況及び活動内容 徳島大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規則等の整備状況及び実施状況、中期計画に基づく組織及び制度全般の運営状況等について監査を行っている。 また、コンプライアンス事案を把握した場合は、「国立大学法人徳島大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則」に基づき、調査を行う。なお、本規則に関する事務は、総務部総務課において行う。・ 専門部署の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 内部規程の整備の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 公表の方法 Web上にて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）が議長を務める徳島大学経営協議会をもって充てることとし、病院長が委員として出席し、病院の経営に関する事項について審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（年3回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年3回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 Web上にて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：徳島大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
植田 貴世子	株式会社クラッシー代表取締役		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
梅田 真司	ケーブルテレビ徳島株式会社 代表取締役社長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
北畑 洋	徳島県病院事業管理者		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
後藤田 正純	徳島県知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
長岡 奨	株式会社阿波銀行 代表取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
結城 章夫	学校法人富澤学園理事長 (元国立大学法人山形大学長)		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
米田 豊彦	一般社団法人徳島新聞社 理事会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
河村 保彦	学長	○	
河野 文昭	理事（教育担当）・副学長		
松木 均	理事（研究担当）・副学長		
藤本 真路	理事（地域・産官学連携担当）・副学長		
吉野 明	理事（総務・財務・経営改革担当） ・副学長・事務局長		
香美 祥二	理事（病院担当）・副学長・病院長		

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 徳島大学のホームページにて周知、院内各部署に通知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1) 病院ホームページへの掲載</p> <p>2) 広報誌：①病院概要 ②徳大病院だより“いきいきらいふ”年4回発行（5,000部×4回） ③徳大病院ニュース“SiDE YOU”年2回発行（7,000部×2回）</p> <p>3) 市民公開講座（徳島大学病院フォーラム）年1回開催</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・ がん診療連携センター 都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、複数の診療科と県内3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院及び他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携及び均てん化を図る中心的な役割を果たしている。 本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門、がんゲノム医療部門の7つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。</p> <p>・ 医科と歯科の連携 医科入院患者およびICU患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに、特定の診療科（精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科）に特化した口腔ケア体制を構築している。</p> <p>・ 耳鼻科と歯科の連携 摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要となるVE（嚥下内視鏡検査）の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。</p> <p>・ 形成外科と矯正歯科の連携 口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的実施し、口蓋裂患者、顎変形症患者の口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。</p>	